

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	3
(1) 学部・学科設置の趣旨及び必要性	3
(2) 養成する人材像、教育上の目的	6
(3) 中心的な学問分野	8
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	10
(1) 教育課程の変更内容	10
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	17
(3) 教員組織の変更内容	20
(4) 大学全体の施設・設備の変更内容	21

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

このたび、立命館アジア太平洋大学（APU）では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2023（令和5）年4月より、サステイナビリティ観光学部（入学定員350人、収容定員1,400人）を新設する。

立命館アジア太平洋大学は、同学部の設置により、大学全体で入学定員を150人、収容定員を450人増加する。

なおサステイナビリティ観光学部の入学定員および収容定員の一部は、既設のアジア太平洋部アジア太平洋学科の入学定員（150人）、2年次編入学定員（7人）、3年次編入学定員（13人）および収容定員（647人）ならびに国際経営学部国際経営学科の入学定員（50人）、2年次編入学定員（17人）、3年次編入学定員（26人）および収容定員（303人）より振り替える。

この収容定員変更の内容および内訳は下表のとおりである（下線部分が変更内容）。

<変更前>

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	<u>660</u>	<u>12</u>	<u>18</u>	<u>2,712</u>
国際経営学部	国際経営学科	<u>660</u>	<u>22</u>	<u>31</u>	<u>2,768</u>
合計		<u>1,320</u>	<u>34</u>	<u>49</u>	<u>5,480</u>

<変更後>

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	<u>510</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>2,065</u>
国際経営学部	国際経営学科	<u>610</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>2,465</u>
サステイナビリティ 観光学部	サステイナビリティ 観光学科	<u>350</u>			<u>1,400</u>
合計		<u>1,470</u>	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>5,930</u>

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

立命館アジア太平洋大学では、教育研究や科学技術の動向を踏まえるなかで教育研究組織や教学の改革を行い、豊かな人間性と国際性を備えた多様な人材の養成に努めてきた。さらに教育研究を基本的な使命とする大学として意義を有する教学改革を不断に実行するために、大学の運営体制の充実・整備を行ってきた。こうした教育研究活動の展開に関する評価の一つは、大学全体や各学部に対する志願状況に表れている〔資料1〕。

高等教育機関の社会的な使命に立脚して、教育研究水準の維持・向上や教育研究環境の整備を図りつつ本学への進学を希望する多様な学生を受け入れ、社会に有意な学生を輩出することは、高等教育機関としての基本的な責務である。本学では、このような責務や要請に積極的に応えていく必要があると考え、このたび既設のアジア太平洋学部アジア太平洋学科及び国際経営学部国際経営学科から定員を一部振り替えつつ、大学全体の収容定員を増加してサステイナビリティ観光学部を設置する形で学則変更（収容定員変更）を申請することとした。

サステイナビリティ観光学部を新設する趣旨及び必要性は次のとおりである。

(1) 学部・学科設置の趣旨及び必要性

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念とし、「APUは世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、そこで学んだ人たちが世界を変える。」を2030年に向けたビジョンに掲げている。サステイナビリティ観光学部の開設は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家:Academic-Practitionerの育成を通じて、本学の基本理念の実現とビジョンの達成を目的としている。

ア 持続可能な社会（サステイナビリティ）に関する教育・研究の必要性

産業革命、特に第二次世界大戦以降、地球規模での人口増加および大量生産・大量消費に伴う資源の枯渇や環境汚染・気候変動、南北の経済格差、急速な都市化と地方の衰退など、環境・経済・社会にさまざまな歪みが生じてきており、持続可能な社会の実現が喫緊の課題となっている。

持続可能な社会とは、サステイナビリティ（持続可能性）、すなわち将来の世代がニーズを満たすことを損なうことなく、現在の世代のニーズも満たしうるような社会である。1962年『沈黙の春』、1972年『成長の限界』、1987年国連環境と開発に関する世界委員会によって発表された『我ら共有の未来』およびその後一連の国連による呼びかけによって、人類社会の持続可能性の危機、そして持続可能な開発の必要性が世界の共通の認識になっている。

持続可能な社会を実現するには、今までの社会経済構造および環境への考え方のパラダイムシフトが必要である。SDGs、グリーンディールなど、国際機関、各国政府はさまざまな政策に取り組んでおり、サステイナビリティ学という学問も生まれつつあるが、具体的にどのような社会経済構造や政策により持続可能な社会を実現できるのか、どのようにシフトしていけばよいかについての包括的な政策群は現段階ではまだ模索中である。しかしそうした明確な解がない中でも、少なくとも以下の三点が重要であると言える。

一つ目は、持続可能な社会の実現は「地域」における実践なしには実現し得ないという点である。それぞれの地域社会が資源循環型であり、経済的に豊かであり、社会的に調和的であり、グローバル化の波の中、その地域の個性（歴史・文化・環境）が保たれていれば、世界が持続可能になる。

二点目に、個々の国は経済発展のレベルが異なるため、持続可能な社会の実現は国際的な協力が必要であるという点である。喫緊の課題である気候変動、貧困撲滅がその顕著な例である。

三点目に、このパラダイムシフトを実現していくには、一人一人がそれぞれ所属する企業や組織、コミュニティに関わる持続可能性に対して高い意識を持ち、行動様式を変革していく必要があるという点である。ここに「持続可能な開発のための教育（ESD）」の重要性があり、持続可能な社会の考え方や分析スキルを持った人が、実際の社会問題に取り組んでいかなければならない。

国内外の大学を見渡すと、現在の持続可能性に関する研究・教育は、主に各分野の専門を経た、大学院レベルで行われていることが多い。しかし、持続可能性に対する教育は、そうした専門家育成としての大学院教育だけが担当すべきものではない。持続可能性の考え方や行動様式は、製造、金融、流通、サービスなど様々な業態や公的政策機関（政府・自治体等）での実践が必要となっており、広範な学士課程教育においてこそ、今、必要とされていると考える。また、そうした ESD を取り込んだ広範囲な学士課程教育の上に展開される大学院教育や研究の展開によって、より多様で網羅的な持続可能性に関する研究成果を出していくことも期待される。

イ 持続可能な観光に関する教育・研究の必要性

現代社会は「モビリティ」という性格を強く有しており、今、それは社会を読み解く重要な要素となっている。情報通信技術の進歩やグローバル化の進展を基盤に、現代のモビリティの主体は、人、モノ、資金、情報、イメージ、文化など多岐にわたり、国境を超えて移動している。特に人の移動は、越境労働者、出張旅行者、観光者などの形態をとり、「人」以外の主体（モノ・情報・イメージなど）をも伴う移動である。とりわけビジネスや観光などの短期の人の移動の活発化が現代社会の大きな特徴となっており、デスティネーションの経済・産業や文化に大きな影響を与えている。

国際的な観光人口は増加を続け、2018 年には 14 億人に達した。2018 年、世界の旅行・観光産業の成長率は 3.9%、世界経済に対する直接寄与額（直接貢献している額）は 8 兆 8000 億米ドル（約 968 兆円）、世界の全雇用者の約 10 分の 1 に相当する 3 億 1900 万人の雇用に貢献した。現在、COVID-19 の影響を大きく受けている観光産業であるが、UNWTO 等の分析では国際観光需要が COVID-19 以前の水準に回復する時期は 2023 年～2024 年末と予測されている。また、COVID-19 以前を大きく凌駕する観光需要がアジア太平洋地域を筆頭に欧州や北米地域など世界の多くの地域で近い将来に見通されている。

しかし、これまでの人類社会における産業の発展や経済的成長が環境・社会に過度な負荷や不平等をもたらしてきたように、観光も環境・社会に負荷をかけ、時にオーバーツーリズムや地域文化の喪失などの弊害をもたらしてきた。また、グローバルなレベルにおけるジェット旅客機などでの移動は温室効果ガスを多く排出している。加えて COVID-19 で明らかになったように、観光の有する脆弱性も大きな課題となっている。こうした課題を乗り越えるために、観光も持続可能

な社会に貢献するような産業に変革していく必要があるという指摘は多い。特に、COVID-19からの回復においては、既存のシステムを変える良い機会であり、責任ある観光を目指すべきであるという議論がなされている。

元々、観光はビジネスとしての参入障壁が低く、今ある地域資源を活かすことができるため、地域の経済活性化の手段として期待されてきた。ここに、環境や社会の持続可能性を加えていくことがこれからの方向性である。近年、このような視点からの観光研究が多く取り組まれており、UNWTO も持続可能な社会に向けて世界観光倫理憲章を定め、企業や教育機関の規範とするよう力を入れている。

現在の観光教育はその多くが経営学もしくは人文科学を基礎としており、サステナビリティと連動した観光教育がおこなわれている学士課程は数が少ない。今後、さらに産業的に成長していくことが予測されている観光を、持続可能な社会に資する方向性で展開できる人材が、今、求められている。

また、観光は「消費するサービス」から「豊かさを生むコンテンツ」へあり方そのものを転換させていくべき時期にある。今後の観光は、地域の資源を発掘し、それを観光魅力に磨き上げていくこと、つまり、観光コンテンツをプロデュースすること、さらに、その地域の生活や文化と「持続可能な」関係を築き、経済的にも循環する形態を目指すことが重要になってくる。そのためには、その地域の理解と持続可能な社会の形成に向けた方法はもちろんのこと、その地域のコンテンツをプロデュースする手法が必要になってくる。こうした持続可能な手法で新たな価値を生み出していくというコンテンツ・プロデューサーのような人材は、従前の活動や行動を無条件に是とせず、絶えず社会の価値観やニーズに対応していかなければならない変化の激しい国際社会において、単に観光という業界のみならず様々な分野においても求められると考える。

ウ 両分野を学ぶ必要性

ア・イで述べたように、今後の観光のあり方としての「持続可能な観光」は、サステナビリティの学問分野と密接な関係にある。また、持続可能な社会の実現のためには、デスティネーションの経済・社会に大きく影響を与え、地域の自然・歴史・文化を保護しながら経済発展に寄与できる「持続可能な観光」は、極めて重要な手法として位置付けられる。

人々が持続可能な社会を実感できるのは、人々が生活を完結できる最小の領域である地域社会においてである。ここで人々は自然環境の悪化（例：川の汚染）、社会的格差（例：貧困地区とゲーテッドコミュニティ）、経済的停滞（例：シャッター街）を実感する。持続可能な観光は、地域社会での経済的持続性をもたらすための有力な手段である。先進国では疲弊した地域の活性化のために観光振興や観光まちづくりが推進され、開発途上国では、貧困削減の為のプロプアー・ツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムが実践されつつある。

このように、観光、サステナビリティとも「地域社会」とは不可分であり、地域の様々な課題の解決とともに、地域の自然・歴史・文化の価値を発見し、保護しながら発展させていくための極めて重要な取り組みとして両分野は共通項が多い。

後述の人材育成像、教育方法でも詳述するが、サステナビリティ観光学部がキャンパスの内外における社会と関連した学び、理論と実践の往復を通じて目指す「学問的実務家（Academic-

Practitioner)」は、そうした地域社会における取り組みなしに育成することはできない。サステイナビリティ観光学部が追求する持続可能な観光とサステイナビリティの教学分野は、地域というフィールドを軸に相互に関連し合い、最も相乗効果を発揮すると考えている。

もちろん、90ヶ国を超える国・地域から学生が集まる本学が対象とするのは、世界のあらゆる「地域」となる。今の時代、地域や社会の課題を解決し、価値を創造していくためには、グローバルな視点や考え方、多国籍・多文化な環境における行動様式を身に付けることは必須と言ってよい。そうした観点からも、サステイナビリティ観光学部で持続可能な観光とサステイナビリティの教学を展開し、両分野を身に付けた人材を世界の様々な地域に輩出していくことに、重要な意義があると考ええる。

エ 社会からの期待

本学は、大分県、別府市の大型公私協力と、本学の理念に賛同いただいた政財界の協力で2000年に開学した大学として、大分県、別府市はもちろん、その他の自治体、国内外の企業や各種団体との連携を重視してきた。そうした多様なステークホルダーとの意見交換においても、今次開設するサステイナビリティ観光学部の教学分野（持続可能な社会・持続可能な観光）に、極めて大きな期待が寄せられている。大分県、別府市など地方自治体や地域、国内外の企業にとって、サステイナビリティ観光学部が展開する教学分野は、今後の日本および世界の社会経済・産業の成長にとって重要であるとともに、今後ますます厳しく問われる自治体・団体・企業等の組織の社会的責任においても極めて重要な領域であるとの認識である。

添付の設置要望書〔資料2〕は、そうした自治体や企業等からのサステイナビリティ観光学部に対する期待を取りまとめたものである。

(2) 養成する人材像、教育上の目的

サステイナビリティ観光学部では、前述の趣旨及び必要性を鑑みて、学部のミッション及び人材育成目的を以下の通り定める。

学部ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家：Academic-Practitionerのコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよびキャンパス内外における様々な社会の活動主体と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する基礎的・専門的知識を修得し、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な分析、問題解決および異文化環境におけるコミュニケーション

ョンや協働の力を身に付けることで、様々な社会課題に対処でき、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

さらにサステナビリティ観光学部では、上記の人材育成目的を達成するため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のように定める。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

サステナビリティ観光学部は、学部則に定めた教育研究上の目的を達するため、卒業要件を定めるとともに、以下を卒業時までには修得すべき学修成果とする。

（卒業要件）

- ・所定の期間在学し、以下に定める履修要件を満たし、要卒科目を合計 124 単位以上修得すること。
- ・共通教育科目 40 単位以上の修得。ただし、以下の要件を満たすこと。
 - ①日本語基準学生は英語科目 24 単位以上、英語基準学生は日本語科目 16 単位以上の修得。
ただし、入学時の言語運用能力によって、英語科目、日本語科目の免除制度を別に設ける。
 - ②学部指定の必修科目 8 単位の修得。
- ・サステナビリティ観光学部専門教育科目 62 単位以上の修得。ただし、以下の要件を満たすこと。
 - ①必修専門教育科目 6 単位の修得。
 - ②観光学分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得。
 - ③持続可能な社会分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得。
 - ④最終成果科目のうち、2 単位以上の修得。
 - ⑤オフキャンパス・プログラム科目のうち、2 単位以上の修得。
- ・日本語基準国内学生は英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目 20 単位以上の修得。
- ・なお、詳細な履修要件は、学部則に定める。

（学修成果）

1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する
 - 1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。
 - 1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。
 - 1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。
2. 課題解決のためのリテラシーを修得する
 - 2-a. 論理的・批判的に思考することができる。
 - 2-b. 定性的、定量的に分析することができる。
 - 2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。
 - 2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。
3. 世界市民としての責任感を身に付ける
 - 3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。

3-b. 「世界観光倫理憲章 (GCET)」に沿って、行動することができる。

卒業要件と学修成果の関係

学修成果	卒業要件
1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する	
1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	・オフキャンパス・プログラム科目（専門実習、フィールド・スタディ、専門インターンシップ）のうち、2 単位以上修得
1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門）修得
1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	・専門教育科目・観光学分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得 ・専門教育科目・持続可能な社会分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得
2. 課題解決のためのリテラシーを修得する	
2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門）修得 ・必修専門教育科目（文献講読Ⅰ・Ⅱ）修得
2-b. 定性的、定量的に分析することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（社会科学のための統計学）修得 ・必修専門教育科目（社会調査法入門）修得
2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。	・最終成果科目（卒業プロジェクト、キャップストーン）のうち、2 単位以上修得
2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	・日本語基準学生は英語科目 24 単位以上、英語基準学生は日本語科目 16 単位以上の修得 ・オフキャンパス・プログラム科目（専門実習、フィールド・スタディ、専門インターンシップ）のうち、2 単位以上修得
3. 世界市民としての責任感を身に付ける	
3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門）修得
3-b. 「世界観光倫理憲章 (GCET)」に沿って、行動することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（観光学入門）修得

(3) 中心的な学問分野

持続可能な社会を構築するための社会学的視点からのアプローチと持続可能な観光学を教学の基本構造としており、社会学領域に合致した内容として、学位の分野を「社会学」と位置付けて

いる。

なお、大学設置基準の別表に示される学位の分野は「社会学・社会福祉学関係」である。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更（収容定員変更）とあわせて届出を行うサステイナビリティ観光学部では、前述した人材育成目的（養成する人材像）にもとづき、以下のとおり教育課程を編成する。このことにより、教育研究水準の維持・向上を積極的に図っていこうとするものである。

なお同学部設置によっても、既設学部等の教育課程に変更はない。

(1) 教育課程の変更内容

ア 新設する学部・学科の機能と特色

サステイナビリティ観光学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）の高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化の中で示された大学の7つの機能のうち、主に「社会貢献機能（地域貢献，産学官連携，国際交流等）」「幅広い職業人養成」「高度専門職業人養成」の機能に比重を置くものである。

本学が2030年を見越して策定した中長期計画の中でも、「APUの財産である世界中の卒業生や地域社会のステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働」、「大学を中核とした民官学の新たな地域発展モデルの創出」等の学外との結びつきを本学の重要な使命の一つとして位置付けている。本学では大分県内すべての地方公共団体（19自治体）に加え、県外の自治体、企業、団体などとも連携協定を締結して随時交流や人材育成に取り組んでいる。例えば、地元紙である大分合同新聞社と共催で本学学長による「5000年史」講座（11回シリーズ）、大分市からの委託による「グローバルニッチトップ」をテーマにした市民向けの講座の提供、NHK大分放送局、J:COMおおいたケーブルテレコム㈱と連携した大分の魅力を本学の国際学生の視点で伝える番組「APU×おおいた」の制作・放送、また、大学として初めて環境省の国立公園オフィシャルパートナーとなり、九州地方環境事務所と連携した阿蘇くじゅう国立公園の外国人訪問者の実態調査などがある。

こうして様々な自治体や企業等とも連携しながら、地域の課題解決のための研究に積極的に取り組み、研究結果を地域に還元していくことで産業や地域社会の発展に寄与してきた。サステイナビリティ観光学部を機に様々な自治体・企業・団体等から連携の依頼、そして協議が進んでおり、サステイナビリティ観光学部は本学の「社会貢献機能」という特徴を特に前面に打ち出す教学の展開となっている。

国際交流については、本学は90以上の国・地域から学生を受け入れてマルチカルチュラル・キャンパスを実現しており、国際的な視野を持って活躍できる人材の育成に取り組んでいる。また、現在は74カ国・地域、493の大学・研究機関等と協定を持ち、コロナ禍以前の水準では、約900名を毎年海外へ派遣している。サステイナビリティ観光学部も世界各国・地域から学生を受け入れる予定である。

「幅広い職業人養成」については、サステイナビリティ観光学部の教育課程において社会学を基盤としたアカデミック・スキルの教育を重視しており、教学分野の持続可能な社会、持続可能な観光は様々な領域において応用可能であり必要とされと考えられることから、「幅広い職業人養成」として幅広い分野へ人材を輩出することが可能と考えている。また、これからの人材は

学士課程に続いて大学院（博士課程）も視野に入れていかなければいけない知識基盤社会であるので、学士課程では専門性もさることながらしっかりとしたアカデミック・スキルの修得が求められると考えている。サステナビリティ観光学部はその点を重視しており、そうした知的基盤を踏まえて、卒業生は幅広い分野で活躍すると考えている。

他方、「高度専門職業人養成」については、サステナビリティ観光学部が「持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家：Academic-Practitioner のコミュニティを目指す」ことをそのミッションと定めているとおり、専門分野の知識修得とともに、地域や企業等における実習であるオフキャンパス・プログラム科目の履修、様々な課題に対して解決策や提案を深める演習・最終成果科目などを配置し、この教学分野における専門性を身に付けられるような教育課程を構築している。

以上のように、その後の大学院（博士課程）への進学も視野に入れている設計の学士課程においては、「幅広い職業人養成」と「高度専門職業人養成」は両立すると考えている。

なお、前述した人材育成目的に照らした特色としては、以下の3点である。

1つ目に、9つの専門領域から構成される豊富な専門科目群を組み合わせた学修である。後述の通り、「観光学分野科目」「持続可能な社会分野科目」「学部共通科目」の専門科目の中に9つの科目群（「観光学」「観光産業」「ホスピタリティ産業」「環境学」「資源マネジメント」「国際開発」「地域づくり」「社会起業」「データサイエンスと情報システム」）を設定する。学生は、教員のアドバイジングの下で、自身が修得を希望する知識・能力やキャリアに応じて、これらの科目群をまたがって横断的に学ぶことが可能である。

2つ目に、「講義・演習」「現場における実践」「調査・分析スキル」を組み合わせる学修する仕組みである。全ての学生が、低回生時からの理論的な学び（専門講義科目）と、アカデミック・スキル（調査手法、分析手法等）を土台に、キャンパス外での実践的な学修（フィールド・スタディ、インターンシップ、専門実習）に取り組むように教育課程を設計している。

3つ目は、学外での実践的な学びである。前述の通り、新たな学部が設置される以前から、本学の特徴の1つは、社会や地域との連携であった。地元の大分県・別府市はもとより、世界各国との繋がりを有する大学である。本学部では、「現場における実践」を重視し卒業要件として設定する学部であることから、そうした国内外における学外の人や機関等、様々な社会の構成員の抱える“活きた課題”に触れ、ともに解決を目指す学部である。

以上の特色を通じて、持続可能な社会と観光に関わる、現代的な課題や地球規模の問題の解決に実践的に取り組む人材を養成する。

Ⅰ 学部・学科等の名称及び学位の名称

(7) 学部・学科の名称

学部・学科名称は、「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性」を踏まえ、今後求められる持続可能な社会の形成と、「モビリティ」の性格を強める社会で益々重要な役割を担う観光について、理論と実践に関する知識やスキルを修得した人材を輩出する学部・学科として名称を定めた。

なお、英語名称は日本語名称と同じ訳としている。

学部学科名称（日本語）	学部学科名称（英語）
サステナビリティ観光学部	College of Sustainability and Tourism
サステナビリティ観光学科	Department of Sustainability and Tourism

(イ) 学位の名称

学位名称は、日本語・英語ともに学部・学科名称と同一としている。

学位名称（日本語）	学位名称（英語）
学士（サステナビリティ観光学）	Bachelor of Sustainability and Tourism

ウ 教育課程の編成の考え方及び特色

(ア) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の編成の体系性

「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性（1）学部・学科設置の趣旨及び必要性」「3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容（1）教育課程の変更内容 ア 新設する学部・学科の機能と特色」を踏まえ、以下のカリキュラム・ポリシーに則って教育課程を編成する。

(1) 教育課程編成方針

(科目配置：共通)

- ・ 共通教育科目、専門教育科目に区分し、これを4年間に配当して編成する。

(科目配置：共通教育科目)

- ・ 共通教育科目は言語教育科目および共通教養科目に区分し、言語教育科目は英語科目、日本語科目、AP言語科目(中国語、韓国語、マレー・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語)および特定講義科目に区分する。
- ・ 共通教養科目は、APUリテラシー分野、学部専門入門分野、世界市民基盤分野から構成される。
- ・ APUリテラシー分野は、本学の学生として必要な国内外の知識を深め、本学の多文化環境を最大限に活用して学びを深めていくための方法論を修得するための科目群とする。
- ・ 学部専門入門分野は、各学部での専門的な学びの導入となる科目群とする。
- ・ 世界市民基盤分野は、学部専門教育の枠組みに収まらない多様な科目群とし、人文科学・社会科学・自然科学の諸領域にわたる豊かな知識・教養を涵養するために配置する。

(科目配置：専門教育科目)

- ・ 専門教育科目は、アカデミック・スキル科目、演習・最終成果科目、オフキャンパス・プログラム科目、学部共通科目、観光学分野科目、持続可能な社会分野科目に区分する。
- ・ アカデミック・スキル科目は、本学部で学修する上で必要となるアカデミック・スキルを修得するための科目群とする。
- ・ 演習・最終成果科目は、学生の興味・関心に基づき演習形式で深めていく科目群とする。
- ・ オフキャンパス・プログラム科目は、学外における実習を含む科目群とする。

- ・学部共通科目は、観光および持続可能な社会の両分野に共通する、課題解決のために重要な分野の科目群とする。
- ・観光学分野科目は、観光学分野の専門科目群とする。
- ・持続可能な社会分野科目は、持続可能な社会分野の専門科目群とする。

(2) 教育課程実施方針

(授業科目の開講)

- ・英語、日本語のどちらかを修得しても入学でき、反対言語を学修しつつ、どちらの言語でも卒業ができるよう、サステナビリティ観光学部学部則記載科目を原則として日英2言語でそれぞれ開講する。
- ・大学および本学部が掲げる方針にしたがって、オフキャンパス・プログラムの開講拡充を進める。
- ・全ての授業科目は、学生の体系的学修を最大限に可能にする学期・曜日時限に開講する。

(授業科目の運営)

- ・全ての授業科目は、大学設置基準、学則および学部則を遵守し、授業科目の方法に応じて、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して運営するものとする。
- ・それぞれの授業科目は、当該授業科目がカリキュラム・マップにおける位置付けを踏まえて、当該授業科目において学生に身につけさせる学修目標(Learning Goals) および学修目的(Learning Objectives) を確実に学生が習得するようにシラバスを設計し、当該授業科目を運営するものとする。
- ・全ての授業科目は、APU の多文化環境を教育に十分に活用して、双方向かつ国際学生・国内学生が協働する「多文化協働学修」を追求する。
- ・授業科目を担当する教員は、授業評価アンケート、成績評価問い合わせ、補講など、授業科目の運営に関して定められた諸制度を遵守しなければならない。

(イ) 教育課程一科目区分の設定

サステナビリティ観光学部の科目区分は下記に示すとおりである。

区分		
共通教育科目	共通教養科目	APU リテラシー
		学部専門入門
		世界市民基盤
	言語教育科目	
専門教育科目	観光学分野科目	観光学
		観光産業
		ホスピタリティ産業
	持続可能な社会分野科目	環境学
		資源マネジメント

		国際開発
	学部共通科目	地域づくり
		社会起業
		データサイエンスと情報システム
		特殊講義
	アカデミック・スキル科目	
	オフキャンパス・プログラム科目	
	演習・最終成果科目	

① 共通教育科目

共通教養科目

「APU リテラシー」、「学部専門入門」、「世界市民基盤」の3分野に分類し、本学の学生として多文化環境を最大限に活用して学びを深めていくための知識やスキルを修得するものや、各学部での専門的な学びの導入、本学の理念を踏まえた多様な教養科目を配置する。

また、初年次教育としては全ての1回生が履修する科目として、大学で学ぶ上で必要となる知識・スキル・姿勢などを学ぶ「スチューデントサクセスワークショップ」と本学の多文化環境を活用し、世界中から集まった学生が協働学修を行う「多文化協働ワークショップ」を設置する。その他、情報リテラシー能力を高めるための情報系科目も体系的に配置している。

なお、サステイナビリティ観光学部に関連する科目として、「持続可能な開発入門」、「観光学入門」、「社会学入門」、「社会科学のための統計学」を必修科目として配置する。

言語教育科目

日本語基準学生は英語を、英語基準学生は日本語を配置する。必修として課する科目・単位は入学時のレベル測定により異なる。必修以外には、選択科目としてより高いレベルの英語・日本語科目を置く他、「アジア太平洋言語（AP言語）」と総称して、中国語・韓国語・スペイン語・マレー・インドネシア語・タイ語・ベトナム語を体系的に配置している。

② 専門教育科目

専門教育科目は目的に応じて、「観光学分野科目」、「持続可能な社会分野科目」、「学部共通科目」、「アカデミック・スキル科目」「オフキャンパス・プログラム科目」「演習・最終成果科目」に区分している。

なお、「観光学分野科目」、「持続可能な社会分野科目」、「学部共通科目」は、その下位に5-8科目から成る3つの科目群をそれぞれ設けている。これは網羅する範囲が広い「観光学」「持続可能な社会」などの区分をさらにテーマごとに区分したものであり、学生が学修の目標を定めやすくするために設けている。もちろん、科目群にとらわれない自由な履修も可能である。科目群は卒業要件に定めるものではないが、この科目群を用いて、卒業後のキャリア等を考えた履修計画を立てることができるように学習指導を行っていく。またこうした科目群を活用し、修得内容を説明する証明書(ディプロマサプリメント)の発行なども進めていく。

観光学分野科目

観光学分野の専門科目を配置する。本分野内に、「観光学」「観光産業」「ホスピタリティ産業」の3つの科目群を設ける。観光学分野科目全体から5科目10単位以上を選択必修とする。

持続可能な社会分野科目

持続可能な社会分野の専門科目を配置する。本分野内に、「環境学」「資源マネジメント」「国際

開発」の3つの科目群を設ける。持続可能な社会分野科目全体から5科目10単位以上を選択必修とする。

学部共通科目

観光および持続可能な社会の両方に共通する分野として、課題解決のための手法などの重要な科目を配置する。本分野内に、「地域づくり」「社会起業」「データサイエンスと情報システム」の3つの科目群を設ける他、観光および持続可能な社会の分野における最先端の研究などを教授する「特殊講義」科目を配置する。

アカデミック・スキル科目

サステナビリティ観光学部において学修する上で必要なアカデミック・スキルの科目を配置する。1・2年次に学ぶ必修科目として「社会調査法入門」、「文献講読Ⅰ」、「文献講読Ⅱ」を、選択科目として「質的分析技法」を配置する。

オフキャンパス・プログラム科目

学外における実習を含む科目を配置する。「専門実習」「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」の3科目を配置し、これらのいずれか1科目2単位以上を選択必修とする。

演習・最終成果科目

3年次・4年次の演習科目、および学修の最終的な成果をまとめる科目を配置する。3年次演習の「専門演習」は必ず履修する必要がある履修指定科目とする。最終成果は「卒業プロジェクト」、「キャップストーン」を配置し、どちらかを取る選択必修とする。

(ウ) 入学時期による対応

本学は、セメスター制を採用し、入学時期は4月・9月の2回設けている。必修科目及び履修指定科目や配当年次は、4月入学および9月入学の学生双方の履修を可能とする開講計画としている。

「英語初級」から「英語準中級」へなど、セメスター単位で履修プロセスが積み上がっていくものを中心に、4月入学・履修開始、9月入学・履修開始の2通りの開講計画とすることで、教育課程の体系性を保ち、十分な教育体制を構築している。

このような入学時期に対応した受講開講計画と学生の履修計画は、2000年の開学以降、20年以上の十分な実績を有しており、サステナビリティ観光学部においても問題ない計画としている。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

ア 教育方法

年次ごとの段階に基づいて、各科目区分・科目群を関連付けて学修をさせる。

オフキャンパス・プログラム科目においては、学修初期段階においては、教学分野に関わる関心、意欲、態度や基本的な調査法等の実践の場として位置づけ、学修後半段階においては、講義等で得た知識などを活用した課題解決の実践とフィードバックを得る場として位置づける。こうした実践の中で不足していると理解した知識や理論、手法については、さらに適切な講義を選択して学修するという学びのサイクルを構築する。この学びのサイクルが各学年内を通じて体系的に運用されるように各科目を設計するとともに、教員間の指導内容の共有を図り、段階的に学修と実践のレベルを向上させる。この4年間全体を通した学びのサイクルは、学修の集大成となる「卒業プロジェクト」または「キャップストーン」において完成する。

授業形態は、講義、一部実習を組み入れた講義、演習の方法を用いる。講義科目では主に実践に必要な知識や理論、手法の理解を深める。一部実習を組み入れた講義科目では、講義内容を実践的に実習で理解することを通して、内容の理解を深める。また、全ての科目において、多国籍・多文化の学生同士のコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションを重視した授業「多文化協働学修」を推進する。

授業の効果を高めるため、一部実習を組み入れた講義や演習科目を中心に、ティーチング・アシスタントを活用する。

受講生規模は、一部実習を組み入れた講義科目は実習内容に合わせて最大50名程度、演習科目のうち、専門演習、卒業研究は1クラス最大20名程度、語学科目は1クラス最大25名程度とする。

イ 履修指導方法

前項の「教育方法」で示した学びのサイクルを担保し、サステイナビリティ観光学部教育の質を保証するという観点から、サステイナビリティ観光学部においては各種の学修支援を行う仕組みを設け、学修の体系化のための「カリキュラム・マップ、履修モデル」[資料3]を活用し、学生一人一人の4年間の学修を支える。

学生に対する学修や履修の支援・指導としては、アカデミック・ライティングを支援する「ライティングセンター」、数学や統計などの学修を支援する「Analytics & Math Center」、言語の自主学習を支援する「言語自主学習センター」、交換留学の相談を受けられる「Student Exchange Advisor」、専門などの学修相談を受けられる「アカデミック・アドバイジング」「オフィス・アワー」などの仕組みを設けている。こうした支援において、学生は専任教員の指導や、時には学生同士のピアサポートを受けることができる。学生は、学部が提供する複数の履修モデルを参照しつつ、そうした学修支援と履修指導を通じて、学びのゴールを見据えて、履修を進める。

ウ 年間履修登録上限単位数

卒業の要件となる単位数の合計は124単位とする。授業内外の学習時間の確保、単位制度の実

質化を目的として、各年次の年間履修登録上限単位数を以下のように設定する。

1 年次は、学びの基盤の集中的な学修を促すと共に、大学における学修習慣を形成するという視点から、登録上限単位数は 36 単位（前期 18 単位・後期 18 単位）とする。学びの展開期となる 2 年次は、語学科目、また後期から始まる展開科目があることから、登録上限単位数は 40 単位（前期 20 単位・後期 20 単位）とする。3 年次は、幅広い学修を促すために、2 年次に引き続き 40 単位（前期 20 単位・後期 20 単位）とする。4 年次は、3 年次までの精選された科目による体系的な学修に加え、「卒業プロジェクト」「キャップストーン」に必要な知識を身に付け、進路を展望した学びを広げられるように 48 単位（前期 24 単位・後期 24 単位）とする。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
36 単位 (前期 18 単位・ 後期 18 単位)	40 単位 (前期 20 単位・ 後期 20 単位)	40 単位 (前期 20 単位・ 後期 20 単位)	48 単位 (前期 24 単位・ 後期 24 単位)

エ 卒業プロジェクト

4 年間の学修の集大成として、大学設置基準第二十一条第三項に定める学修の成果評価に基づく単位授与科目として、卒業論文やアクティビティ・レポート等の成果物を作成する卒業プロジェクトを開設する。学生は、基本的には 4 年次に、それまでの学修を踏まえた上で、自らの問題意識に基づき研究目標を設定し、研究計画を具体化し、教員の指導により卒業プロジェクトを作成する。また、研究活動は基本的には個人活動となるが、学び合いという視点から、同一演習の学生間で共有する機会を設け、積極的に研究内容の相互理解を行う。卒業プロジェクトは成果物による単位授与を行うが、単位数は、成果物の完成に必要な学修時間や取り組み内容等を考慮し、4 単位とする。

オ 卒業要件

サステイナビリティ観光学部においては、先に示したディプロマ・ポリシーにもとづき、履修の系統性を明示するために、前述の科目区分を踏まえた上で、科目区分ごとの所定単位数及びその内の必修単位数を以下のとおり設定する。

卒業要件と学修成果の関係については、「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性（2）養成する人材像、教育上の目的」に記載の通りである。

区分			必要単位数	
共通 教育 科目	共通教養科目		16 単位以上選択必修 内、以下の 4 科目 8 単位必修 持続可能な開発入門、観光学入門、 社会学入門、社会科学のための統計学 (他、全学共通履修指定科目：以下の 2 科目 4 単位) スチューデントサクセスワークショップ 多文化協働ワークショップ	40 単位 以上
	言語教育科目		日本語(英語基準学生) 16 単位必修 英語(日本語基準学生) 24 単位必修	
専門 教育 科目	アカデミック・スキル科目		以下の 3 科目 6 単位必修 社会調査法入門、文献講読Ⅰ、文献講読Ⅱ	62 単位 以上
	演習・最終成果科目		以下の 1 科目 2 単位以上選択必修 卒業プロジェクト、キャップストーン 以下の 2 科目 4 単位履修指定 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ	
	オフキャンパス・プログラム科目		以下の内、1 科目 2 単位以上選択必修 専門実習、フィールド・スタディ、 専門インターンシップ	
	学部共通科目	地域づくり		
		社会起業		
		データサイエンスと 情報システム		
		特殊講義		
	観光学 分野科目	観光学	5 科目 10 単位以上選択必修	
		観光産業		
		ホスピタリティ産業		
	持続可能な社会 分野科目	環境学	5 科目 10 単位以上選択必修	
		資源マネジメント		
		国際開発		
合計				124 単位

カ 他大学における授業科目の履修

本学では、「大学コンソーシアムおおいた」の加盟大学や学校法人立命館が設置する立命館大学、また本学協定校への交換留学派遣等、学生の多様な学修ニーズに応えるために他大学における授業科目の履修を 60 単位までを上限として認めており、サステイナビリティ観光学部でも同様の取り扱いとする。

なお、本学は「単位互換制度の運用に係る基本的な考え方」（令和元年 8 月 13 日付け元文科高第 328 号）に準拠して、あらかじめ協議等により定められた範囲、および個々の学生の学修ニーズに基づいて行われた学修について、教学委員会で定められたプロセスにしたがい、教育上有益と認められることを前提に、必修/選択/自由の別に留意した上で単位認定を行っており、サステ

イナビリティ観光学部でも同様の取り扱いとする。

(3) 教員組織の変更内容

サステイナビリティ観光学部における教員編成の基本的な考え方は次のとおりであって、収容定員の増加に対応できる。

ア 教員規模

学部の人材育成目的を達成するために、学部の理念やコンセプト、教育手法を正しく共有する事に留意し、教育・研究のさらなる高度化・活性化に資する教員編成とする。

観光学分野、持続可能な社会分野、学部共通分野の各分野に適正な人員を配置する。

アカデミック・スキル科目および演習・最終成果科目は全て専任教員を配置し、観光学分野科目、持続可能な社会分野科目、学部共通分野科目、オフキャンパス・プログラム科目を中心に専任教員を配置する。専任教員数は、完成年度の2026（令和8）年度時点で、アジア太平洋学部、国際経営学部、教育開発・学修支援センターからの移籍教員19名、新規任用教員4名である。なお、教員の任用や昇任については、「立命館アジア太平洋大学教員任用および昇任規程」を踏まえた内規を定め、これに基づき行う。

完成年度において、専任教員の博士号取得率は約91.3%であり、十分な研究業績を有する教員を配置している。科目の担当体制については、「立命館アジア太平洋大学教員責任時間規程」に基づき、担当科目時間数が過大とならないように配置する。

イ 年齢・職位の構成

完成年度末（2027年3月31日）時点において、専任教員の年齢構成は、29歳以下0名（0%）、30歳代1名（4.3%）、40歳代4名（17.4%）、50歳代12名（52.2%）、60歳代6名（26.1%）、70歳以上0名（0%）である（小数点第2位を四捨五入している）。完成年度終了までに定年もしくは任期満了を迎える教員の後任について、科目担当の計画は以下の通りである。任期を定めない教員における本学の定年は、「立命館アジア太平洋大学教職員就業規則」に定める通り、教授65歳であり、それを超える場合は「立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程」〔資料4〕に基づき再雇用する。70歳の教員は以降任用しないため、後任を任用する。

また、サステイナビリティ観光学部の日本国籍保有者は10名（43.5%）であり、その内、海外で学位を取得した教員は7名となっている。全体で日本を含め11ヶ国・地域出身の教員組織となっており、世界中から集まる学生を教育するに相応しい多様性を有する。

年度	定年・任期満了を迎える教員数	科目担当計画
令和5（2023）年度	1名	令和6（2024）年度以降、同一人物を特別雇用教員として雇用

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

ア 校地、運動場の整備計画

本学のキャンパスは大分県別府市に位置し、サステナビリティ観光学部も同キャンパスに設置する。校地は約 35 万 m²（寄宿舍等除く）の面積を有し、十分な空地を有している。また、メイグラウンド、多目的グラウンドの運動場（合計 41,810 m²）と、ジムやアリーナ等から構成される体育館（G 棟：延べ床面積 2,950 m²）を有しており、学生の休息や心身の健康維持に必要なスペースや施設を有している。

イ 校舎等施設の整備計画

教室は、教室棟（F 棟）、教室棟Ⅱ（FⅡ棟）、メディアセンター（D 棟）、大学院棟（H 棟）、研究棟（B 棟）に配置されており、新たな教室棟（名称未定）を 2023 年 2 月完成予定で建設をしている。新たな教室棟を含めて、教室は定員 200 名以上の大教室：21 室、50－199 名の中教室：24 室、49 名以下の小教室：99 室が整備され、時間割シミュレーション〔資料 5〕からも、授業の実施に十分な数を備えている。

教員研究室は、言語教育を担う特任講師は 2 名で 1 室、同じく言語教育を担う嘱託講師は共同研究室を整備している。それ以外の専任教員は個室の研究室を整備している。

学生の学習施設としては、後述の図書館内のラーニング・コモンズの他、言語自主学習のための施設（316 m²）、新たな教室棟のコモンズスペース（1,430 m²）がある。

その他、食堂、学生の課外活動のための施設、ホールなどを整備している。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

(7) 図書および雑誌等の整備状況

2022 年 3 月現在で、蔵書数は図書 236,758 冊、雑誌 2,788 タイトル、オンラインデータベース・電子ジャーナル 32,374 種類、視聴覚資料 4,684 点であり、本学の教育・研究分野構成にふさわしいバランスと特色ある蔵書構成となっている。なお、同一法人の立命館大学との共同利用制度による利用可能冊数を加えると、蔵書数は図書 3,622,131 冊となる。受入れる図書は、教員の推薦する参考書・テキストであるシラバス掲載図書、学生からの購入希望図書、講義等の専門分野に関連する学術書を中心に、学際分野や教養書等も広く収書を行っている。

雑誌の 2,788 タイトルの内訳は、和雑誌 1,837 タイトル、洋雑誌 951 タイトルとなっており、本学の多様な学生・教職員の構成や日・英二言語教育を考慮し、洋雑誌を充実させている。閲覧可能なデータベース・電子ジャーナルは 32,374 種類となっており、これらは学内からはもとより、学外からも VPN 接続の手続きを行えば利用可能である。文献複写、図書館間相互貸借（ILL）申し込み、予約・取り寄せについてもウェブを通じて行うことができ、利便性の高い学術情報提供を図っている。

これらの図書・雑誌・電子情報については、立命館学術情報システム（RUNNERS）により、本学の図書館ならびに同一法人の立命館大学の図書館（計 7 館）との間で、所蔵資料の情報検索、電

子資料の横断検索、予約・取り寄せといった相互利用が可能となっている。また、国立国会図書館や国立情報学研究所を始め、国内外の大学と ILL による相互協力により、広く学術情報や目録情報を共有している。

また、上記のうち、2022 年 3 月現在、大学全体ではサステナビリティ観光学部の教育に関する図書が 6,398 冊（うち外国書 4,118 冊）、雑誌が 362 タイトル（うち外国雑誌 337 タイトル）である。さらに、サステナビリティ観光学部として必要な図書資料を新たに購入・整備する。新たに整備する際の選書・収集は、授業科目概要や教員の推薦等にもとづくとともに、持続可能な社会分野、観光学分野を学ぶためのものを中心に行い、完成年度には図書 8,000 冊（うち外国書 5,600 冊）、学術雑誌 500 タイトルを予定している。

① 図書整備計画

分野	整備予定冊数
観光分野	600 冊
開発分野	400 冊
環境分野	300 冊
ICT 分野	300 冊
計	1,600 冊

② すでに整備されている主な学術雑誌

タイトル	ISSN
Sociologia ruralis	1467-9523
Community Development Journal	1468-2656
Rural Sociology	1549-0831
Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations	1573-7888
Journal of heritage tourism	1747-6631
Nature Climate Change	1758-6798
World development	1873-5991
Community Development: Journal of the Community Development Society	1944-7485
Nature Energy	2058-7546

③ 整備予定の主な学術雑誌

タイトル	ISSN
Economic Development and Cultural Change	0013-0079
Cities	0264-2751
Building and Environment	0360-1323
Current Issues in Tourism	1747-7603

Review of Environmental Economics and Policy	1750-6816
Cambridge Journal of Regions, Economy and Society	1752-1386
Journal of environmental sociology	2434-0618

(イ) 閲覧席、ラーニング・コモンズ

ライブラリーの開館時間は、授業開講期の月～金曜は8時30分～24時00分、土日祝日および長期休暇期間は10時00分～18時00分としており、毎年、約340日開館している。ライブラリーは収納可能冊数289,700冊、総座席数1,037席である。

また、ライブラリーには一般図書の他に当該科目開講期間中にテキスト・参考文献を一箇所にまとめて配架するリザーブ・コーナー、逐次刊行物・雑誌等の配架コーナー、視聴覚コーナー、情報検索コーナー、グループ学習室、マルチメディアルーム等を設置している。

ライブラリー1階フロアはラーニング・コモンズとして協働学修スペースを置くほか、プレゼンテーションルームやグループ学習室、ライティングセンター（日本語／英語）、数学や統計学の学修サポートを提供する「Analytics and Math Center」を設置している。

(ウ) 外部の図書館との相互協力

他機関との協力に関わっては、Online Computer Library Center, Inc. (OCLC) や国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILLの図書館間ネットワーク等に参加するとともに、私立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）等の加盟図書館として、国内外を問わず他大学、他機関と図書館間相互協力（文献複写や相互現物貸借）を推進している。

(エ) 検索手法の指導等による利用者支援

ライブラリー利用者への支援は、司書資格を持った委託職員等を窓口およびレファレンスカウンターに配置してサービスを行っている。また、学生スタッフが配架やクイックリファレンス、広報活動等でライブラリー運営に参画している。レファレンス担当職員や学生スタッフは、初年次学生全員が履修する共通教養科目におけるリテラシー教育の授業コンテンツとして情報・資料収集等を行う事や、個別教員からの要請に応じてレファレンス・ガイダンス、実際にライブラリーを利用して蔵書や情報検索を行う課外セッション等を実施している。

以上により、施設・設備において、収容定員の変更後でも、これまでと同等以上の教育研究を展開することができる。

以上

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）

目次

資料 1	立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移 . . .	2
資料 2	サステイナビリティ観光学部を設置要望する機関一覧と要望書 . .	3
資料 3	カリキュラム・マップ、履修モデル	14
資料 4	立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程	29
資料 5	時間割シミュレーション	31
資料 6	教育課程等の概要（別記様式第 2 号）	33

[資料1 立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移]

学部名		2017(平成29) 年度	2018 (平成30) 年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
アジア太平洋学部	志願者数	1,899	2,923	3,590	3,138	2,500
	合格者数	1,200	1,195	1,163	1,144	1,047
	入学者数(A)	694	656	660	603	586
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	1.05	0.99	1.00	0.91	0.88
国際経営学部	志願者数	1,868	2,697	3,210	2,661	2,209
	合格者数	1,163	1,163	1,221	1,129	1,122
	入学者数(A)	641	640	641	566	599
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	0.97	0.96	0.97	0.85	0.90
大学合計	志願者数	3,767	5,620	6,800	5,799	4,709
	合格者数	2,363	2,358	2,384	2,273	2,169
	入学者数(A)	1,335	1,296	1,301	1,169	1,185
	入学定員(B)	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
	A/B	1.01	0.98	0.98	0.88	0.89

○差し替えが必要な書類等について

1) 書類等の題名

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）について（【資料2】3 ページから 13 ページ）

2) 書類等の内容

サステイナビリティ観光学部を設置要望する機関一覧と要望書

カリキュラム・マップ

資料3 カリキュラム・マップ、履修モデル

ディプロマポリシー（卒業時まで）に修得すべき学修成果													
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由	2. 課題解決のためのリテラシーを修得する						3. 世界市民としての責任感を身に付ける			
				1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する			2. 課題解決のためのリテラシーを修得する			3. 世界市民としての責任感を身に付ける			
				1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	2-b. 定性的・定量的に分析することができる。	2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。	2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	3-b. 「世界観光倫理憲章（GCTI）」に沿って、行動することができる。	
共通教育科目	観光学入門	1前・後	必修		✓		✓						✓
	持続可能な開発入門	1前・後	必修		✓		✓				✓		
	社会学入門	1前・後	必修		✓		✓						
	社会科学のための統計学	1前・後	必修		✓			✓					
観光学分野科目	観光社会学	2・3前・後	選択	✓		✓		✓					✓
	観光文化論	2・3前・後	選択	✓		✓		✓					✓
	遺産観光論	3・4前・後	選択	✓		✓		✓					✓
	観光経済学	3・4前・後	選択	✓		✓		✓					✓
	文化人類学	2・3前・後	選択			✓		✓					✓
	観光とメディア	2・3前・後	選択	✓		✓		✓					✓
	ツーリズム・オペレーション	2・3前・後	選択			✓			✓				✓
	観光地マーケティング	3・4前・後	選択	✓		✓			✓				✓
	MICE産業論	2・3前・後	選択	✓		✓			✓				✓
	スペシャルインタレスト・ツーリズム	2・3前・後	選択	✓		✓			✓				✓
	ヘルス&ウェルネスツーリズム	2・3前・後	選択			✓			✓				✓
	ホスピタリティ・オペレーション	2・3前・後	選択			✓			✓				✓
	サービス・エクスペリエンス	3・4前・後	選択			✓			✓				✓
	リゾート・マーケティング	3・4前・後	選択	✓		✓			✓				✓
	フード&ビバレッジ・オペレーション	2・3前・後	選択			✓			✓				✓
	レバニエー・マネジメント	3・4前・後	選択			✓			✓				✓
持続可能な社会	環境と社会	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓		
	環境政策とガバナンス	2・3前・後	選択	✓		✓			✓				
	環境経済学	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓		
	環境教育	2・3前・後	選択			✓		✓			✓		
	気候変動	2・3前・後	選択			✓		✓			✓		
	生物多様性	1・2前・後	選択		✓		✓				✓		
	公園と保護地域	3・4前・後	選択			✓			✓		✓		
	環境汚染と防止	1・2前・後	選択		✓		✓				✓		
	資源マネジメント	2・3前・後	選択			✓					✓		

ディプロマポリシー（卒業時までには修得すべき学修成果）													
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由	1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する			2. 課題解決のためのリテラシーを修得する				3. 世界市民としての責任感を身に付ける		
				1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	2-b. 定性的・定量的に分析することができる。	2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題の解決能力を発揮することができる。	2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	3-b. 「世界観光倫理憲章（GCET）」に沿って、行動することができる。	
専門教育科目	社会分野科目	循環型社会論	3・4前・後	選択			✓		✓				
	エネルギーマネジメント	2・3前・後	選択			✓			✓				
	サステイナブルビジネス	3・4前・後	選択	✓					✓				
	開発社会学・人類学	2・3前・後	選択			✓		✓					
	開発政治論	2・3前・後	選択	✓		✓		✓					
	紛争と開発	2・3前・後	選択			✓		✓					
	国際開発協力	2・3前・後	選択			✓			✓				
	開発政策	3・4前・後	選択	✓		✓		✓					
	開発と経済	3・4前・後	選択	✓		✓		✓					
	サステイナブルツーリズム	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓		
学部共通科目	観光地開発と計画	2・3前・後	選択	✓		✓							
	農村開発と観光	2・3前・後	選択	✓		✓							
	サステイナブル都市開発と計画	1・2前・後	選択		✓		✓				✓		
	都市デザイン	2・3前・後	選択			✓			✓				
	レジリエント都市論	1・2前・後	選択		✓		✓				✓		
	コミュニティ開発論	3・4前・後	選択	✓					✓		✓		
	GISとリモートセンシング	1・2前・後	選択		✓		✓						
	インターネット技術とアプリケーション	1・2前・後	選択		✓		✓						
	ビッグデータ分析	2・3前・後	選択			✓		✓					
	システムモデリング	2・3前・後	選択			✓		✓					
	応用統計分析	2・3前・後	選択			✓		✓					
	ニューテクノロジーと未来社会	2・3前・後	選択	✓		✓		✓					
	会計入門	1・2前・後	選択		✓		✓						
	組織行動論	2・3前・後	選択			✓			✓				
	経営学入門	1・2前・後	選択		✓		✓						
	マーケティング入門	1・2前・後	選択		✓		✓						
	経営戦略	2・3前・後	選択						✓				
ソーシャルアントレプレナーシップ	3・4前・後	選択	✓		✓			✓		✓			
プロジェクトマネジメント	2・3前・後	選択			✓			✓		✓			

ディプロマポリシー（卒業時までには修得すべき学修成果）												
				1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する			2. 課題解決のためのリテラシーを修得する				3. 世界市民としての責任感を身に行ける	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由	1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	2-b. 定性的・定量的に分析することができる。	2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題を解決能力を発揮することができる。	2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	3-b. 「世界観光倫理憲章（GCET）」に沿って、行動することができる。
カリキュラム・マップ		NPO/NGO論	3・4前・後	選択	✓	✓			✓		✓	
		特殊講義（専門教育科目）	1・2・3・4前・後	選択		✓	✓					
	・アスカデミックス科目	社会調査法入門	1前・後	必修		✓		✓				
		質的分析技法	1・2前・後	選択		✓		✓				
		文献講読Ⅰ	2前	必修			✓					
		文献講読Ⅱ	2後	必修			✓	✓				
	・オブパブリックプログラム	専門実習	1・2・3・4前・後	選択	✓	✓				✓		
		フィールド・スタディ	1・2・3・4前・後	選択	✓	✓				✓		
		専門インターンシップ	2・3・4前・後	選択	✓		✓			✓		
	・最終演習成果科目	専門演習	3前・後	選択			✓		✓			
	卒業研究	4前	選択			✓			✓			
	卒業プロジェクト	4後	選択			✓			✓			
	キャリアブス トーン	4前・後	選択			✓			✓			

履修モデル 1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	言語教育科目	英語初級A	196	英語24 単位 （日本 語基準 学生） または 日本語 16単位 （英語 基準学 生）	4		✓				24
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
		中国語Ⅰ			4						
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA			2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（スペイン語）			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
共通教育 科目		言語グローバルラーニング（タイ語）A		40単位 以上	2						
		言語グローバルラーニング（タイ語）B			2						
		ベトナム語Ⅰ			4						
		ベトナム語Ⅱ			4						
		ベトナム語Ⅲ			2						
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）A			2						
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）B			2						
		日本語教育のための日本語学			2						
		日本語教授法			2						
		アジア太平洋言語入門			2						
		集中言語研修			2						
		特殊講義（言語教育科目）			2						
	APUリテラシー 分野科目	スチューデントサクセスワークショップ		16単位 以上	2		✓				28
		多文化協働ワークショップ			2		✓				
		平和・ヒューマニティ・民主主義			2						
		異文化間コミュニケーション入門			2						
		異文化フィールドワークⅠ			2						
		異文化フィールドワークⅡ			2						
		多文化比較論			2						
		グローバルリーダーシップの基礎			2						
		海外学習デザイン			2						
		ブリッジプログラム			2						
		異文化間コミュニケーションの応用と実践			2			✓			
		グローバルリーダーシップのためのスキルと実践			2				✓		
		ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ			2				✓		
		アジア太平洋の言語			2						
		アジア太平洋の宗教			2			✓			
		アジア太平洋の地理			2						
		アジア太平洋の文化と社会			2						
		アジア太平洋の歴史			2						
		日本の政治と社会			2						
		日本のポピュラーカルチャー			2						
		日本の歴史			2						
		日本国憲法			2						
		特殊講義（日本学）			2						
		茶道			2						
		華道			2						
		日本の伝統芸能			2						
共通教 養科目	学部専門入門 分野科目	観光学入門	130	16単位 以上	2		✓				
		持続可能な開発入門			2		✓				
		社会学入門			2		✓				
		社会科学のための統計学			2		✓				
		政策学入門			2						
		メディア学入門			2						
		国際関係論入門			2						
		比較政治学入門			2						
		政治学入門			2						
		世界経済とグローバル課題			2						
		経済学入門			2			✓			
		基礎数学			2						
		上級数学			2						
		法学			2						
		心理学			2						
		生命倫理			2						
		ウェルネス			2						
		AIと社会			2						
		西洋哲学			2						
		中国哲学			2						
		西洋美術			2						
		近現代の科学技術			2						
		ネゴシエーションスキル			2			✓			

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング				2		✓			
		キャリア形成のための自己分析				2		✓			
		キャリア形成のための多様な視点				2					
		キャリア形成のためのキャリア分野分析				2					
		特殊講義（共通教養科目）				2					
		ウェブデザイン				2					
		情報処理入門				2					
		プログラミング入門				2					
		情報リテラシー				2					
		メディア制作ラボ				2					
		AIとデータサイエンス				2					
		GIS入門				2					
		データベースシステム				2					
		特殊講義（ICT）				2					
		情報システムプログラミング				2					
		インターンシップ				2					
専門科目	観光学 分野科目	観光社会学	32	10単位 以上		2					
		観光文化論				2					
		遺産観光論				2			✓		
		観光経済学				2					
		文化人類学				2					
		観光とメディア				2			✓		
	観光産業	ツーリズム・オペレーション				2					
		観光地マーケティング				2			✓		
		MICE産業論				2					
		スペシャルインタレスト・ツーリズム				2					
	ホスピタリ ティ産業	ヘルス&ウェルネスツーリズム				2		✓			
		ホスピタリティ・オペレーション				2					
		サービス・エクスペリエンス				2					
		リゾート・マーケティング				2			✓		
	持続可 能な社 会分野 科目	フード&ビバレッジ・オペレーション				2					
		レベニュー・マネジメント				2					
	環境学	環境と社会		36	10単位 以上	2			✓		
		環境政策とガバナンス				2					
		環境経済学				2					
		環境教育				2					
		気候変動				2					
		生物多様性				2		✓			
		公園と保護地域				2			✓		
		環境汚染と防止				2					
	資源マネジ メント	資源マネジメント				2					
		循環型社会論				2					
		エネルギーマネジメント				2					
		サステナブルビジネス				2			✓		
	国際開発	開発社会学・人類学			62単位 以上	2			✓		
		開発政治論				2					
		紛争と開発				2					
		国際開発協力				2					
		開発政策				2					
		開発と経済				2					
学部共	地域づくり	サステナブルツーリズム				2			✓		
		観光地開発と計画				2			✓		
		農村開発と観光				2		✓			
		サステナブル都市開発と計画				2	✓				
		都市デザイン				2					
		レジリエント都市論				2		✓			
		コミュニティ開発論				2			✓		
		GISとリモートセンシング				2			✓		
	データサイ エンスと情報シ ステム	インターネット技術とアプリケーション				2					
		ビッグデータ分析				2					
		システムモデリング				2					
						2					

履修モデル 1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2		科目名	全開講 単位数	卒業要件		単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	通科目	社会起業	応用統計分析				2						20
			ニューテクノロジーと未来社会				2						
			会計入門				2			✓			
			組織行動論				2						
			経営学入門				2		✓				
			マーケティング入門				2			✓			
			経営戦略				2						
			ソーシャルアントレプレナーシップ				2					✓	
			プロジェクトマネジメント				2			✓			
			NPO/NGO論				2				✓		
			特殊講義				2						
			特殊講義（専門教育科目）				2						
	アカデミック・スキル		社会調査法入門	8	6単位 以上		2	◎	✓				6
			質的分析技法				2						
			文献講読Ⅰ				2	◎		✓			
			文献講読Ⅱ				2	◎		✓			
	オフキャンパス・プログラム		専門実習	6	2単位 以上		2	△	✓				8
			フィールド・スタディ				2	△		✓	✓		
			専門インターンシップ				2	△			✓		
	演習・最終成果		専門演習	10	2単位 以上		2	■			✓✓		12
			卒業研究				2					✓	
			卒業プロジェクト				4	△				✓	
			キャブストーン				2	△				✓	
				462	124単位以上		◎：必修科目						計：124

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	言語教育科目	英語初級A	196	英語24 単位 (日本 語基準 学生) または 日本語 16単位 (英語 基準学 生)	4		✓				24
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
		中国語Ⅰ			4						
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA			2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（スペイン語）			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						

履修モデル2

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
共通教育 科目		言語グローバルラーニング（タイ語）A		40単位 以上	2						
		言語グローバルラーニング（タイ語）B			2						
		ベトナム語Ⅰ			4						
		ベトナム語Ⅱ			4						
		ベトナム語Ⅲ			2						
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）A			2						
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）B			2						
		日本語教育のための日本語学			2						
		日本語教授法			2						
		アジア太平洋言語入門			2						
		集中言語研修			2						
		特殊講義（言語教育科目）			2						
	APUリテラシー 分野科目	スチューデントサクセスワークショップ		16単位 以上	2		✓				24
		多文化協働ワークショップ			2		✓				
		平和・ヒューマニティ・民主主義			2						
		異文化間コミュニケーション入門			2						
		異文化フィールドワークⅠ			2						
		異文化フィールドワークⅡ			2						
		多文化比較論			2						
		グローバルリーダーシップの基礎			2						
		海外学習デザイン			2						
		ブリッジプログラム			2						
		異文化間コミュニケーションの応用と実践			2						
		グローバルリーダーシップのためのスキルと実践			2						
		ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ			2						
		アジア太平洋の言語			2						
		アジア太平洋の宗教			2						
		アジア太平洋の地理			2						
		アジア太平洋の文化と社会			2						
		アジア太平洋の歴史			2						
		日本の政治と社会			2						
		日本のポピュラーカルチャー			2						
		日本の歴史			2						
		日本国憲法			2						
		特殊講義（日本学）			2						
		茶道			2						
		華道			2						
		日本の伝統芸能			2						
共通教 養科目	学部専門入門 分野科目	観光学入門	130	16単位 以上	2		✓				
		持続可能な開発入門			2		✓				
		社会学入門			2		✓				
		社会科学のための統計学			2		✓				
		政策学入門			2						
		メディア学入門			2						
		国際関係論入門			2						
		比較政治学入門			2						
		政治学入門			2						
		世界経済とグローバル課題			2		✓				
		経済学入門			2						
		基礎数学			2		✓				
		上級数学			2			✓			
		法学			2						
		心理学			2						
		生命倫理			2						
		ウェルネス			2						
		AIと社会			2						
		西洋哲学			2						
		中国哲学			2						
		西洋美術			2						
		近現代の科学技術			2						
		ネゴシエーションスキル			2			✓			

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング			2			✓			
		キャリア形成のための自己分析			2						
		キャリア形成のための多様な視点			2						
		キャリア形成のためのキャリア分野分析			2						
		特殊講義（共通教養科目）			2						
		ウェブデザイン			2						
		情報処理入門			2						
		プログラミング入門			2						
		情報リテラシー			2		✓				
		メディア制作ラボ			2						
		AIとデータサイエンス			2						
		GIS入門			2						
		データベースシステム			2						
		特殊講義（ICT）			2						
		情報システムプログラミング			2						
		インターンシップ			2						
専門科目	観光学 分野科目	観光社会学	32	10単位 以上	2			✓			10
		観光文化論			2				✓		
		遺産観光論			2				✓		
		観光経済学			2						
		文化人類学			2						
		観光とメディア			2						
	観光産業	ツーリズム・オペレーション			2						
		観光地マーケティング			2						
		MICE産業論			2						
		スペシャルインタレスト・ツーリズム			2						
	ホスピタリ ティ産業	ヘルス&ウェルネスツーリズム			2				✓		
		ホスピタリティ・オペレーション			2			✓			
		サービス・エクスペリエンス			2						
		リゾート・マーケティング			2						
	持続可能 な社会分 野科目	フード&ビバレッジ・オペレーション			2						
		レベニュー・マネジメント			2						
	環境学	環境と社会	36	10単位 以上	2				✓		26
		環境政策とガバナンス			2				✓		
		環境経済学			2				✓		
		環境教育			2						
		気候変動			2						
		生物多様性			2			✓			
		公園と保護地域			2						
	資源マネジ メント	環境汚染と防止			2			✓			
		資源マネジメント			2			✓			
		循環型社会論			2				✓		
		エネルギーマネジメント			2						
	国際開発	サステナブルビジネス			2					✓	
		開発社会学・人類学			2			✓			
		開発政治論			2				✓		
		紛争と開発			2				✓		
		国際開発協力			2				✓		
		開発政策			2						
		開発と経済			2				✓		
	学部共	地域づくり	44	62単位 以上	2				✓		14
		サステナブルツーリズム			2				✓		
		観光地開発と計画			2						
		農村開発と観光			2						
		サステナブル都市開発と計画			2				✓		
		都市デザイン			2						
		レジリエント都市論			2						
		コミュニティ開発論			2						
	データサイ エンスと情 報シ ステム	GISとリモートセンシング			2						
		インターネット技術とアプリケーション			2		✓				
		ビッグデータ分析			2						
		システムモデリング			2						

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2		科目名	全開講 単位数	卒業要件		単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	通科目	社会起業	応用統計分析	4			2				✓		4
			ニューテクノロジーと未来社会				2						
			会計入門				2						
			組織行動論				2						
			経営学入門				2			✓			
			マーケティング入門				2						
			経営戦略				2						
			ソーシャルアントレプレナーシップ				2					✓	
			プロジェクトマネジメント				2				✓		
			NPO/NGO論				2						
			特殊講義				2						
			特殊講義（専門教育科目）				2						
	アカデミック・スキル		社会調査法入門	8	6単位 以上	2	◎	✓					8
			質的分析技法			2			✓				
			文献講読Ⅰ			2	◎		✓				
			文献講読Ⅱ			2	◎		✓				
	オフキャンパス・プログラム		専門実習	6	2単位 以上	2	△	✓					8
			フィールド・スタディ			2	△		✓	✓			
			専門インターンシップ			2	△			✓			
	演習・最終成果		専門演習	10	2単位 以上	2	■			✓✓			10
			卒業研究			2					✓		
			卒業プロジェクト			4	△				✓		
			キャブストーン			2	△						
				462	124単位以上		◎：必修科目						計：124

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	言語教育科目	英語初級A	196	英語24 単位 (日本 語基準 学生) または 日本語 16単位 (英語 基準学 生)	4		✓				30
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
		中国語Ⅰ			4						
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA			2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（中国語）B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）A			2						
		言語グローバルラーニング（韓国語）B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング（スペイン語）			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

- 設置等の趣旨 (資料) - 26 -

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング			2			✓			
		キャリア形成のための自己分析			2						
		キャリア形成のための多様な視点			2						
		キャリア形成のためのキャリア分野分析			2						
		特殊講義（共通教養科目）			2						
		ウェブデザイン			2						
		情報処理入門			2						
		プログラミング入門			2						
		情報リテラシー			2		✓				
		メディア制作ラボ			2						
		AIとデータサイエンス			2						
		GIS入門			2						
		データベースシステム			2						
		特殊講義（ICT）			2						
		情報システムプログラミング			2						
		インターンシップ			2						
専門科目	観光学 分野科目	観光社会学	32	10単位 以上	2			✓			22
		観光文化論			2						
		遺産観光論			2				✓		
		観光経済学			2				✓		
		文化人類学			2						
		観光とメディア			2				✓		
	観光産業	ツーリズム・オペレーション			2			✓			
		観光地マーケティング			2						
		MICE産業論			2			✓			
		スペシャルインタレスト・ツーリズム			2						
	ホスピタリ ティ産業	ヘルス&ウェルネスツーリズム			2						
		ホスピタリティ・オペレーション			2				✓		
		サービス・エクスペリエンス			2				✓		
		リゾート・マーケティング			2				✓		
	持続可 能な社 会分野 科目	フード&ビバレッジ・オペレーション			2			✓			
		レベニュー・マネジメント			2				✓		
	環境学	環境と社会	36	10単位 以上	2						12
		環境政策とガバナンス			2						
		環境経済学			2						
		環境教育			2						
		気候変動			2						
		生物多様性			2			✓			
		公園と保護地域			2						
	資源マネジ メント	環境汚染と防止			2						
		資源マネジメント			2			✓			
		循環型社会論			2				✓		
		エネルギーマネジメント			2						
	国際開発	サステイナブルビジネス			2					✓	
		開発社会学・人類学			2						62単位 以上
		開発政治論			2						
		紛争と開発			2						
		国際開発協力			2						
	地域づくり	開発政策			2				✓		
		開発と経済			2				✓		
	学部共 データサイ エンスと情 報シ ステム	サステイナブルツーリズム	44	—	2						19
		観光地開発と計画			2						
		農村開発と観光			2						
		サステイナブル都市開発と計画			2						
		都市デザイン			2						
		レジリエント都市論			2						
		コミュニティ開発論			2						
		GISとリモートセンシング			2						
	データサイ エンスと情 報シ ステム	インターネット技術とアプリケーション			2		✓				
		ビッグデータ分析			2						
		システムモデリング			2						

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2		科目名	全開講 単位数	卒業要件		単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	通科目	社会起業	応用統計分析	12			2				✓		12
			ニューテクノロジーと未来社会				2						
			会計入門				2						
			組織行動論				2						
			経営学入門				2			✓			
			マーケティング入門				2			✓			
			経営戦略				2						
			ソーシャルアントレプレナーシップ				2				✓		
			プロジェクトマネジメント				2				✓		
			NPO/NGO論				2						
			特殊講義				2						
			特殊講義（専門教育科目）				2						
	アカデミック・スキル		社会調査法入門	8	6単位 以上	2	◎	✓					8
			質的分析技法			2		✓					
			文献講読Ⅰ			2	◎		✓				
			文献講読Ⅱ			2	◎		✓				
	オフキャンパス・プログラム		専門実習	6	2単位 以上	2	△					4	
			フィールド・スタディ			2	△	✓					
			専門インターンシップ			2	△			✓			
	演習・最終成果		専門演習	10	2単位 以上	2	■			✓✓		10	
			卒業研究			2					✓		
			卒業プロジェクト			4	△				✓		
			キャブストーン			2	△						
				462	124単位以上		◎：必修科目						計：124

○立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程

2016年12月 7 日

規程第1098号

(趣旨)

第1条 この規程は、特別雇用教員について、必要な事項を定めることを目的とする。

2 立命館アジア太平洋大学有期雇用教員就業規則その他の規程に定めのない事項については、日本国の労働基準法その他の法令の定めるところによる。

(定義)

第2条 特別雇用教員とは、本大学の教授職にあった者のうち優れた教育研究実績もしくは大学運営に関する経験を持つものについて、教育研究上または大学運営上の特別の必要から定年到達後に継続して任用する者をいう。

(職位)

第3条 特別雇用教員の職位は、教授とする。

(所属)

第4条 特別雇用教員の所属は、定年退職時と同一とする。

(任用基準および手続)

第5条 特別雇用教員の任用基準および手続は、立命館アジア太平洋大学教員任用および昇任規程による。

(職務)

第6条 特別雇用教員は、所属長の指示を受け、次に定める職務を遂行する。

- (1) 学則に定める授業科目の担当およびこれに付随する業務
- (2) 正課外の教育の担当およびこれに付随する業務
- (3) 研究および本大学のネットワークの充実発展に必要な業務
- (4) 学生の生活および課外活動の援助
- (5) 入学試験およびこれに関連する業務の補助
- (6) その他本大学の教学の実施に関し、必要とされる業務

(個人研究費等)

第7条 特別雇用教員に対する個人研究費等の取り扱いは、立命館アジア太平洋大学個人研究費等取扱規程に定める。

(個人研究室)

第8条 特別雇用教員には個人研究室を貸与する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、常任理事会が行う。

附 則

この規程は、2017年4月1日から施行する。

時間割シミュレーション

前期

期限	配当年次	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
		科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態
1	1	言語科目	S	言語科目	S	スケジュールサクスワークショップ	S	言語科目	S	言語科目	S
	2	言語科目	S	言語科目	S	国際開発協力	Q	言語科目	S	言語科目	S
	3・4	遺産観光論	Q	循環型社会論	Q	経営戦略	Q	観光地マーケティング	Q	循環型社会論	Q
2	1	言語科目	S	生物多様性	Q	多文化協働ワークショップ	S	言語科目	S	生物多様性	Q
	2	言語科目	S	ツーリズム・オペレーション	Q	国際開発協力	Q	言語科目	S	ツーリズム・オペレーション	Q
	3・4	遺産観光論	Q	環境と社会	Q	経営戦略	Q	観光地マーケティング	Q	環境と社会	Q
3	1	サステイナブル都市開発と計画 会計入門	Q	スベシャルインタレスト・ツーリズム	Q	観光学入門	S	サステイナブル都市開発と計画 会計入門	Q	スベシャルインタレスト・ツーリズム	Q
	2	文化人類学	Q	環境経済学	Q	応用統計分析	S	文化人類学	Q	環境経済学	Q
	3・4	気候変動	Q	観光社会学	Q	専門インターンシップ	S	気候変動	Q	観光社会学	Q
4	1	社会調査法入門	S	GISとリモートセンシング	Q	持続可能な開発入門	S			社会学入門	S
	2	開発社会学・人類学	Q	ホスピタリティ・オペレーション	Q			開発社会学・人類学	Q	プロジェクトマネジメント	Q
	3・4	都市デザイン	Q	ビッグデータ分析	Q	キャップストーン	S	都市デザイン	Q	観光地開発と計画	Q
5	1	情報リテラシー	S	GISとリモートセンシング	Q			ソーシヤルアントレプレナiership	Q		
	2	文庫講読I	S	ホスピタリティ・オペレーション ビッグデータ分析	Q					プロジェクトマネジメント	Q
	3・4	リゾート・マーケティング	Q	専門演習	S			リゾート・マーケティング	Q	観光地開発と計画	Q
6	1	特殊講義（専門教育科目）	S	経営学入門	S			社会科学のための統計学	S	専門実習	S
	2	文庫講読II	S	開発政治論	Q					開発政治論	Q
	3・4	開発政策	Q	卒業研究	S			開発政策	Q		

開講形態は、S：セメスター開講、Q：クォーター開講を表す

時間割シミュレーション

後期

期限	配当年次	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
		科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態
1	1	言語科目	S	言語科目	S	スケジュールサクセスワークショップ	S	言語科目	S	言語科目	S
	2	言語科目	S	言語科目	S	サステイナブルツールズ	Q	言語科目	S	言語科目	S
	3・4	観光経済学 公園と保護地域	Q	サステイナブルビジネス	Q	システムモデリング	Q	サービス・エクスペリエンス	Q	サステイナブルビジネス	Q
2	1	言語科目	S	環境汚染と防止	Q	多文化協働ワークショップ	S	言語科目	S	環境汚染と防止	Q
	2	言語科目	S	MICE産業論	Q	サステイナブルツールズ	Q	言語科目	S	MICE産業論	Q
	3・4	観光経済学 公園と保護地域	Q	環境政策とガバナンス	Q	システムモデリング	Q	サービス・エクスペリエンス	Q	環境政策とガバナンス	Q
3	1	レジャーエント都市論	Q			観光学入門	S	レジャーエント都市論	Q		
	2	観光文化論	Q	ヘルス&ウェルネスツールズ	Q	専門インターンシップ	S	観光文化論	Q	ヘルス&ウェルネスツールズ	Q
	3・4	資源マネジメント	Q	環境教育	Q			資源マネジメント	Q	環境教育	Q
4	1	社会調査法入門	S	インターネット技術とアプリケーション	Q	持続可能な開発入門	S	質的分析技法	S	社会学入門	S
	2	観光とメディア	Q	フード&ビバレッジ・オペレーション	Q			観光とメディア	Q	組織行動論	Q
	3・4	農村開発と観光 NPO/NGO論	Q	エネルギー・マネジメント	Q	キャップストーン	S	農村開発と観光 NPO/NGO論	Q		
5	1	情報リテラシー	S	インターネット技術とアプリケーション	Q						
	2	文庫講読I	S	フード&ビバレッジ・オペレーション	Q					組織行動論	Q
	3・4	レベニュー・マネジメント コミュニケーション開発論	Q	エネルギー・マネジメント 専門演習	S			レベニュー・マネジメント コミュニケーション開発論	Q		
6	1			マーケティング入門	S			社会科学のための統計学	S	専門実習	S
	2	文庫講読II	S	紛争と開発	Q					紛争と開発	Q
	3・4	開発と経済	Q	卒業研究	S			開発と経済	Q	ニューテックノロジーと未来社会	Q

開講形態は、S：セメスター開講、Q：クォーター開講を表す

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	言語教育科目	英語初級A	1・2前・後		4			○							兼2
		英語初級B	1・2前・後		2			○							兼2
		英語準中級A	1・2前・後		4			○							兼2
		英語準中級B	1・2前・後		2			○							兼2
		英語中級A	1・2前・後		4			○							兼2
		英語中級B	1・2前・後		2			○							兼2
		英語準上級A	1・2前・後		4			○							兼2
		英語準上級B	1・2前・後		2			○							兼2
		英語上級1A	1・2前・後		4			○							兼1
		英語上級1B	1・2前・後		2			○							兼1
		英語上級2A	1・2前・後		4			○							兼1
		英語上級2B	1・2前・後		2			○							兼1
		英語ディスカッションとディベート	2・3前・後		2			○							兼1
		英語検定試験対策講座Ⅰ	2・3・4前・後		2			○							兼1
		英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2			○							兼1
		英語検定試験対策講座Ⅲ	2・3・4前・後		2			○							兼1
		メディアのなかの英語	2・3前・後		2			○							兼1
		ジャーナリズムのための英語	2・3前・後		2			○							兼1
		TESOL	2・3・4前・後		2			○							兼1
		ビジネス英語A	2・3前・後		2			○							兼1
		ビジネス英語B	2・3前・後		2			○							兼1
		ホスピタリティ・観光の英語	2・3前・後		2			○							兼1
		英語コミュニケーション・スキル	2・3前・後		2			○							兼1
		英語小説講読	2・3前・後		2			○							兼1
		日本語初級Ⅰ	1・2前・後		4			○							兼3
		日本語初級Ⅱ	1・2前・後		4			○							兼4
		日本語初級Ⅲ	1・2前・後		4			○							兼4
		日本語中級	1・2前・後		4			○							兼4
		日本語中上級	2・3前・後		4			○							兼3
		日本語上級	2・3前・後		4			○							兼2
		キャリア日本語	3・4前・後		4			○							兼1
		日本語・日本文化	2・3前・後		2			○							兼1
		日本語・日本社会	2・3前・後		2			○							兼1
		漢字・語彙スキルアップ	2・3前・後		2			○							兼1
		自己表現のための日本語	2・3前・後		2			○							兼1
		日本語コミュニケーションスキル	2・3前・後		2			○							兼1
		日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2			○							兼1
		日本語教授法	2・3・4前・後		2			○							兼1
		中国語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
		中国語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
		中国語ⅢA	1・2・3前・後		2				○						兼1

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（サステイナビリティ観光学部 サステイナビリティ観光学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	中国語ⅢB	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（中国語）A	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（中国語）B	1・2・3前・後		2			○							兼1
	韓国語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	韓国語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	韓国語Ⅲ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	韓国語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（韓国語）A	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（韓国語）B	1・2・3前・後		2			○							兼1
	マレー・インドネシア語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	マレー・インドネシア語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	マレー・インドネシア語ⅢA	1・2・3前・後		2			○							兼1
	マレー・インドネシア語ⅢB	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（マレー・インドネシア語）	1・2・3前・後		2			○							兼1
	スペイン語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	スペイン語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	スペイン語ⅢA	1・2・3前・後		2			○							兼1
	スペイン語ⅢB	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（スペイン語）	1・2・3前・後		2			○							兼1
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（タイ語）A	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（タイ語）B	1・2・3前・後		2			○							兼1
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（ベトナム語）A	1・2・3前・後		2			○							兼1
	言語グローバルラーニング（ベトナム語）B	1・2・3前・後		2			○							兼1
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2		○								兼1
	集中言語研修	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
	特殊講義（言語教育科目）	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
	言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8			○		1					兼1
	小計（74科目）	—	0	204	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼28 —
共通教養科目	観光学入門	1前・後	2			○				1		1		
	持続可能な開発入門	1前・後	2			○			1					
	社会学入門	1前・後	2			○			1			1		
	社会科学のための統計学	1前・後	2			○				2				
	スチューデントサクセスワークショップ	1前・後		2			○							兼10
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○			1				兼7
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2		○								兼1

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	共通教養科目	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2		○									兼1	※実習
		異文化フィールドワークⅠ	1前・後		2		○									兼1	
		異文化フィールドワークⅡ	1・2前・後		2		○									兼1	
		多文化比較論	1・2前・後		2		○									兼2	
		グローバルリーダーシップの基礎	1・2前・後		2		○									兼1	
		海外学習デザイン	1・2前・後		2		○									兼1	
		ブリッジプログラム	1・2前・後		2		○									兼1	
		異文化間コミュニケーションの応用と実践	2・3前・後		2		○									兼1	
		グローバルリーダーシップのためのスキルと実践	2・3前・後		2				○							兼1	
		ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ	2・3前・後		2				○							兼1	
		アジア太平洋の言語	1・2前・後		2		○									兼1	※演習
		アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2		○									兼1	
		アジア太平洋の地理	1・2前・後		2		○									兼1	
		アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2		○									兼1	
		アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2		○									兼1	
		日本の政治と社会	1・2前・後		2		○									兼2	
		日本のポピュラーカルチャー	1・2前・後		2		○									兼1	
		日本の歴史	1・2前・後		2		○									兼1	
		日本国憲法	1・2前・後		2		○									兼1	
		特殊講義（日本学）	1・2前・後		2		○									兼1	
		茶道	2・3前・後		2		○									兼1	
		華道	2・3前・後		2		○									兼1	
		日本の伝統芸能	2・3前・後		2		○									兼1	
		政策学入門	1・2前・後		2		○									兼1	※演習
		メディア学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
		国際関係論入門	1・2前・後		2		○									兼3	
		比較政治学入門	1・2前・後		2		○									兼1	
		政治学入門	1・2前・後		2		○									兼2	
		世界経済とグローバル課題	1・2前・後		2		○									兼1	
		経済学入門	1・2前・後		2		○									兼3	
		基礎数学	1・2前・後		2		○									兼1	
		上級数学	2・3前・後		2		○									兼1	
		法学	1・2前・後		2		○									兼1	
		心理学	1・2前・後		2		○				1						兼1
		生命倫理	1・2前・後		2		○										
		ウェルネス	2・3前・後		2		○				1						
AIと社会	1・2前・後		2		○									兼1			
西洋哲学	1・2前・後		2		○									兼1			
中国哲学	1・2前・後		2		○									兼1			
西洋美術	1・2前・後		2		○									兼1			
近現代の科学技術	1・2前・後		2		○									兼1			

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																				
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
共通教育科目	共通教養科目	ネゴシエーションスキル	1・2前・後		2		○									兼1				
		論理とクリティカルシンキング	1・2前・後		2		○									兼1				
		キャリア形成のための自己分析	1・2前・後		2		○									兼1				
		キャリア形成のための多様な視点	1・2前・後		2		○									兼1				
		キャリア形成のためのキャリア分野分析	2・3前・後		2		○									兼1				
		特殊講義（共通教養科目）	1・2・3・4前・後		2		○									兼2				
		ウェブデザイン	1・2前・後		2			○								兼1				
		情報処理入門	1・2前・後		2			○			1					兼1				
		プログラミング入門	1・2前・後		2			○			1					兼3				
		情報リテラシー	1・2前・後		2			○			1									
		メディア制作ラボ	2・3前・後		2			○								兼1				
		AIとデータサイエンス	2・3前・後		2		○			1										
		GIS入門	2・3前・後		2			○		1										
		データベースシステム	2・3前・後		2			○								兼1				
専門教育科目	観光学分野科目	特殊講義（ICT）	2・3・4前・後		2		○			1	1					兼1				
		情報システムプログラミング	2・3前・後		2			○								兼1				
		インターンシップ	2・3・4前・後		2				○							兼1		※講義		
		共通教養科目分野	1・2・3・4前・後		8		○			1										
		小計（ 66 科目）		—	8	130	0	—			6	4	0	2	0	兼43		—		
				観光社会学	2・3前・後		2		○							1				兼2 兼1
				観光文化論	2・3前・後		2		○			1								
				遺産観光論	3・4前・後		2		○			1				1				
				観光経済学	3・4前・後		2		○			1								
				文化人類学	2・3前・後		2		○											
				観光とメディア	2・3前・後		2		○							1				
				ツーリズム・オペレーション	2・3前・後		2		○							1				
				観光地マーケティング	3・4前・後		2		○				1			1				
				MICE産業論	2・3前・後		2		○			2								
スペシャルインタレスト・ツーリズム	2・3前・後				2		○							1						
ヘルス&ウェルネスツーリズム	2・3前・後				2		○			1										
ホスピタリティ・オペレーション	2・3前・後				2		○				1			1						
サービス・エクスペリエンス	3・4前・後				2		○				1			1						
リゾート・マーケティング	3・4前・後				2		○				1			1						
フード&ビバレッジ・オペレーション	2・3前・後		2		○							1								
レベニュー・マネジメント	3・4前・後		2		○			1						兼1						
専門教育科目分野（観光学）		1・2・3・4前・後		8		○			1											
小計（ 17 科目）		—	0	40	0	—			5	1	0	3	0	兼3	—					
		環境と社会	2・3前・後		2		○			1						兼1				
		環境政策とガバナンス	2・3前・後		2		○			1										
		環境経済学	2・3前・後		2		○			1										
		環境教育	2・3前・後		2		○													

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	持続可能な社会分野科目	気候変動	2・3前・後		2		○			1	1					兼1 兼1
		生物多様性	1・2前・後		2		○			1						
		公園と保護地域	3・4前・後		2		○			1						
		環境汚染と防止	1・2前・後		2		○			1						
		資源マネジメント	2・3前・後		2		○				1					
		循環型社会論	3・4前・後		2		○			1						
		エネルギーマネジメント	2・3前・後		2		○				1					
		サステナブルビジネス	3・4前・後		2		○				1					
		開発社会学・人類学	2・3前・後		2		○			1						
		開発政治論	2・3前・後		2		○									
		紛争と開発	2・3前・後		2		○									
		国際開発協力	2・3前・後		2		○			1						
		開発政策	3・4前・後		2		○			1						
		開発と経済	3・4前・後		2		○			2						
		専門教育科目分野（持続可能な社会）	1・2・3・4前・後		8		○			1						
		小計（19科目）		—	0	44	0	—			6	2	0	0	0	
	学部共通科目	サステナブルツーリズム	2・3前・後		2		○			1						兼2 兼1 兼2 兼1
		観光地開発と計画	2・3前・後		2		○			1				1		
		農村開発と観光	2・3前・後		2		○			1						
		サステナブル都市開発と計画	1・2前・後		2		○				1					
		都市デザイン	2・3前・後		2		○			1						
		レジリエント都市論	1・2前・後		2		○				1					
		コミュニティ開発論	3・4前・後		2		○			1						
		GISとリモートセンシング	1・2前・後		2			○		1						
		インターネット技術とアプリケーション	1・2前・後		2			○		1	1					
		ビッグデータ分析	2・3前・後		2			○			1					
システムモデリング		2・3前・後		2			○		1							
応用統計分析		2・3前・後		2				○		1						
ニューテクノロジーと未来社会		2・3前・後		2		○			1	1						
会計入門		1・2前・後		2		○				1						
組織行動論		2・3前・後		2		○										
経営学入門		1・2前・後		2		○										
マーケティング入門		1・2前・後		2		○										
経営戦略		2・3前・後		2		○				1			1			
ソーシャルアントレプレナーシップ		3・4前・後		2		○				1			1			
プロジェクトマネジメント	2・3前・後		2		○				1							
NPO/NGO論	3・4前・後		2		○					2						
特殊講義（専門教育科目）	1・2・3・4前・後		2		○											
専門教育科目分野（学部共通）	1・2・3・4前・後		8		○			1								
小計（23科目）		—	0	52	0	—			6	4	0	3	0	兼6	—	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	・アカデミック科目	社会調査法入門	1前・後	2				○		2							
		質的分析技法	1・2前・後		2		○			1							
		文献講読Ⅰ	2前	2				○		5			2				
		文献講読Ⅱ	2後	2				○		5			2				
		小計（ 4 科目）	－	6	2	0	－			9	0	0	2	0	兼0	－	
	・オフキャンパスプログラム科目	専門実習	1・2・3・4前・後		2		○			5	1						※実習
		フィールド・スタディ	1・2・3・4前・後		2		○			4	1					兼1	※実習
		専門インターンシップ	2・3・4前・後		2				○							兼1	※講義
		小計（ 3 科目）	－	0	6	0	－			7	1	0	0	0	兼1	－	
	・最終成果科目	専門演習	3前・後		2			○		12	5		3				
		卒業研究	4前		2			○		12	5		3				
		卒業プロジェクト	4後		4			○		12	5		3				
		キャップストーン	4前・後		2			○		3							
		小計（ 4 科目）	－	0	10	0	－			13	5	0	3	0	兼0	－	
	合計（ 210 科目）			－	14	488	0	－			14	6	0	3	0	兼74	－
	学位又は称号		学士（サステナビリティ観光学）		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								
	卒業要件及び履修方法								授業期間等								
	卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ①共通教養科目において、以下の4科目8単位を含む合計16単位以上を修得する。 持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門、社会科学のための統計学 ②言語教育科目において、日本語基準学生は英語24単位以上、英語基準学生は日本語16単位以上を修得する。 (2)専門教育科目において、以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計62単位以上を修得する。 ①アカデミック・スキル科目のうち、以下の3科目6単位を修得する。 社会調査法入門、文献講読Ⅰ、文献講読Ⅱ ②演習・最終成果科目のうち、以下の科目から1科目2単位以上を修得する。 卒業プロジェクト、キャップストーン ③オフキャンパス・プログラム科目のうち、1科目2単位以上を修得する。 ④観光学分野科目のうち、5科目10単位以上を修得する。 ⑤持続可能な社会分野科目のうち、5科目10単位以上を修得する。 履修科目の登録の上限：1年次36単位（前期18単位・後期18単位）、2年次40単位（前期20単位・後期20単位）、3年次40単位（前期20単位・後期20単位）、4年次48単位（前期24単位・後期24単位）								1 学年の学期区分				2 学期				
									1 学期の授業期間				14週				
									1 時限の授業時間				100分				

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(サステイナビリティ観光学部 サステイナビリティ観光学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
（アジア太平洋学部アジア太平洋学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	英語初級A	1・2前・後		4			○							兼5	
	英語初級B	1・2前・後		2			○							兼4	
	英語準中級A	1・2前・後		4			○							兼11	
	英語準中級B	1・2前・後		2			○							兼12	
	英語中級A	1・2前・後		4			○							兼17	
	英語中級B	1・2前・後		2			○							兼13	
	英語準上級A	1・2前・後		4			○							兼14	
	英語準上級B	1・2前・後		2			○							兼14	
	ジャーナリズムのための英語	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語ディスカッションとディベート	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語上級1A	1・2前・後		4			○							兼3	
	英語上級1B	1・2前・後		2			○							兼3	
	英語上級2A	1・2前・後		4			○							兼4	
	英語上級2B	1・2前・後		2			○							兼4	
	ビジネス英語2	2・3前・後		2			○							兼1	
	英語多読	2・3前・後		2			○							兼1	
	メディアのなかの英語	2・3前・後		2			○							兼1	
	英語プロジェクト2	3・4前・後		2			○							兼1	
	日本語初級Ⅰ	1・2前・後		4			○							兼16	
	日本語初級Ⅱ	1・2前・後		4			○							兼13	
	日本語初級Ⅲ	1・2前・後		4			○							兼14	
	日本語中級	1・2前・後		4			○							兼12	
	日本語中上級	2・3前・後		4			○							兼11	
	日本語上級	2・3前・後		4			○							兼9	
	日本語プロジェクトA	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語プロジェクトC	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語プロジェクトD	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語プロジェクトF	2・3前・後		2			○							兼1	
	講義の日本語	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語・日本文化	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語・日本社会	2・3前・後		2			○							兼1	
	キャリア日本語	3・4前・後		4			○							兼2	
	日本語ビジネスコミュニケーションA	3・4前・後		2			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	中国語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼5	
	中国語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	中国語Ⅳ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	韓国語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	韓国語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼3	
	韓国語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	韓国語Ⅳ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	マレー語・インドネシア語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼5	
	マレー語・インドネシア語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	マレー語・インドネシア語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	マレー語・インドネシア語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	スペイン語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	スペイン語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	スペイン語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（アジア太平洋学部アジア太平洋学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
言語教育科目	スペイン語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼2
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○		1					兼2
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼2
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2
	ベトナム語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	TESOL	2・3・4前・後		2			○							兼1
	英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2			○							兼1
	海外集中言語研修	1・2・3・4前・後		2			○							兼2
	特殊講義（言語教育科目）	1・2・3・4前・後		2		○								兼4
	日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2		○								兼1
	日本語教授法	2・3・4前・後		2		○								兼1
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2		○			1					
	言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8			○		1					
	小計（66科目）	—	0	204	0	—			2	0	0	0	0	兼40
共通教育科目	スタディスキル・アカデミックライティング	1前・後		2			○		2	3		2		兼13
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○		2	1		1		兼10
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2		○			1					兼1
	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2		○								兼3
	多文化比較論	1・2前・後		2		○			4	1				
	海外学習デザイン	1・2前・後		2		○								兼1
	異文化フィールドワークⅠ	1前・後		2		○								兼2
	APSブリッジプログラム	1・2前・後		2		○								兼1
	ピアリーダートレーニング入門	1・2前・後		2		○								兼2
	ピアリーダートレーニングⅠ	1・2前・後		2		○								兼2
	ピアリーダートレーニングⅡA	2・3前・後		2		○								兼3
	ピアリーダートレーニングⅡB	2・3前・後		2		○								兼3
	アジア太平洋の言語	1・2前・後		2		○			1					兼1
	アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の地理	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2		○			2					兼1
	アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の経済	1・2前・後		2		○								兼2
	日本の地理	1・2前・後		2		○								兼2
	日本の文化と社会	1・2前・後		2		○			2					兼2
	日本の歴史	1・2前・後		2		○				1				兼1
	日本の経済	1・2前・後		2		○								兼2
	日本国憲法	1・2前・後		2		○			1					兼1
	茶道	2・3前・後		2		○								兼1
	華道	2・3前・後		2		○								兼1
	日本の伝統芸能	2・3前・後		2		○								兼1
	法学	1・2前・後		2		○			1					兼2
	心理学	1・2前・後		2		○			1					兼1
	生命倫理	1・2前・後		2		○			1					兼1
	環境科学	2・3前・後		2		○				1				兼1

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通 教育科目	ウェルネス	2・3前・後		2		○			2					兼1	※講義
	文化・社会学入門	1・2前・後		2		○			2					兼2	
	メディア入門	1・2前・後		2		○			2						
	国際関係論入門	1・2前・後		2		○			1	2				兼1	
	政治学入門	1・2前・後		2		○			1	1					
	開発学入門	1・2前・後		2		○			2			1			
	環境学入門	1・2前・後		2		○				2				兼1	
	観光学入門	1・2前・後		2		○				1		2		兼1	
	経済学入門	1・2前・後		2		○			1					兼4	
	統計学	1・2前・後		2		○								兼5	
	ネゴシエーションスキル	1・2前・後		2		○			1						
	ロジカルシンキングとフレームワーク	1・2前・後		2		○								兼1	
	キャリア・デザインⅠ	1・2前・後		2		○								兼1	
	キャリア・デザインⅡ	2・3前・後		2		○								兼2	
	キャリア・デザインⅢ	3・4前・後		2		○								兼1	
	キャリア・デザインⅣ	3・4前・後		2		○								兼1	
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○	1						
	メディア制作ラボ	2・3前・後		2			○		2					兼2	
	インターネット入門	1・2前・後		2			○		1					兼1	
	コンピューターリテラシー	1・2前・後		2			○							兼3	
	プログラミング	1・2前・後		2			○		1					兼5	
	データマイニング	2・3前・後		2			○							兼3	
	GIS入門	2・3前・後		2			○		1					兼1	
	インターネット技術統合	2・3前・後		2			○		1						
	データベースシステム	3・4前・後		2			○							兼3	
	特殊講義（ICT）	3・4前・後		2			○		2					兼2	
	特殊講義（共通教養科目）	1・2・3・4前・後		2		○								兼12	
	共通教養科目分野	1・2・3・4前・後		8		○			1						
	小計（58科目）	—	0	122	0	—			23	8	0	2	0	兼45	—
専門 教育科目	APS入門	1前・後		2		○			2	2					※実習 ※演習
	地域研究入門	1前・後		2		○				1				兼1	
	調査研究入門	2・3前・後		2			○		2					兼1	
	専門演習Ⅰ	3・4前・後		2			○		19	8		3		兼3	
	専門演習Ⅱ	3・4前・後		2			○		23	8		4		兼3	
	卒業研究Ⅰ	4前		2			○		23	8		4		兼4	
	卒業研究Ⅱ	4後		4			○		22	8		3		兼5	
	特殊講義（専門教育科目）	2・3・4前・後		2		○			5	1		2		兼2	
	APSフィールド・スタディ	2・3前・後		2		○			2			1			
	地域研究	2・3前・後		2		○			2	1				兼1	
	プロジェクト研究	3・4前・後		2		○			1						
	都市環境と開発	2・3前・後		2		○								兼2	
	地球環境問題	2・3前・後		2		○			2					兼1	
	開発社会学・人類学	2・3前・後		2		○			2						
	環境と社会	2・3前・後		2		○				1				兼1	
	生物多様性	2・3前・後		2		○				1				兼1	
	紛争と開発	2・3前・後		2		○			1						
	国際協力論	2・3前・後		2		○			1						
	開発政治論	2・3前・後		2		○								兼2	
	エコ・ツーリズム論	2・3前・後		2		○			2						

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	基礎演習（環境・開発）	2前・後		2				○							兼2	※実習
	コミュニティ・ベース・ツーリズム	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	環境・開発フィールド・スタディ	2・3前・後		2			○			2						
	NPO/NGO研究	3・4前・後		2			○			2						
	環境コミュニケーション	3・4前・後		2			○								兼2	
	コミュニティー開発論	3・4前・後		2			○			1						
	開発のプロジェクト・マネジメント	3・4前・後		2			○								兼2	
	開発政策	3・4前・後		2			○					1				
	環境経済学	3・4前・後		2			○			1					兼2	
	環境政策	3・4前・後		2			○			1						
	産業生態学	3・4前・後		2			○				1				兼1	
	環境モデリング	3・4前・後		2			○			1						
	資源マネジメント	3・4前・後		2			○				1				兼1	※演習
	GISとリモートセンシング	3・4前・後		2				○		1						
	国際経済学	3・4前・後		2			○								兼2	
	開発経済学	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	国際機構論	3・4前・後		2			○			1						
	環境・開発 特殊講義	3・4前・後		2			○			1	1					
	ホスピタリティ・マーケティング	2・3前・後		2			○						1		兼1	
	ホスピタリティ・マネジメント	2・3前・後		2			○				1		1			
	観光社会学	2・3前・後		2			○								兼2	
	イベントマネジメント	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	旅行産業論	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	遺産観光論	2・3前・後		2			○			1			1			
	観光文化論と観光史	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	文化人類学	2・3前・後		2			○			1	1					
	基礎演習（観光学）	2前・後		2					○	2						
	観光開発と計画	3・4前・後		2			○			1						
	観光・ホスピタリティと法	3・4前・後		2			○								兼2	
	健康とウェルネスツーリズム	3・4前・後		2			○								兼2	
	観光とソーシャルメディア	3・4前・後		2			○			1			1			
	観光地マーケティングとマネジメント	3・4前・後		2			○			1			1			
	農業遺産とツーリズム	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	MICE産業論	3・4前・後		2			○			1						
	リゾート開発	3・4前・後		2			○			1	1					
	観光経済学	3・4前・後		2			○								兼2	
	オペレーションズ・リサーチ	3・4前・後		2			○								兼2	
	人材マネジメント（上級）	3・4前・後		2			○								兼1	
	観光学 特殊講義	3・4前・後		2			○			2					兼2	
	組織行動論（上級）	3・4前・後		2			○								兼2	
国際問題と政策	2・3前・後		2			○			1	1						
国際法	2・3前・後		2			○						1		兼1		
グローバル化と地域主義	2・3前・後		2			○			1	1						
平和学	2・3前・後		2			○			1					兼1		
政治理論	2・3前・後		2			○								兼2		
アジア太平洋の比較政治経済	2・3前・後		2			○				1				兼1		
国際関係理論	2・3前・後		2			○				1				兼1		
国際政治史	2・3前・後		2			○				1				兼1		
人権論	2・3前・後		2			○						1				
基礎演習（国際関係）	2前・後		2					○	1							
グローバリゼーションと規範	3・4前・後		2			○						1		兼1		

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	冷戦後の紛争と地政学	3・4前・後		2		○									兼2
	アイデンティティと政治	3・4前・後		2		○			1						兼1
	国際紛争解決	3・4前・後		2		○									兼1
	国際政治経済学	3・4前・後		2		○			1						
	アジア太平洋における国際関係	3・4前・後		2		○			1						兼1
	戦略分析と意思決定	3・4前・後		2		○			1	1					
	暴力とテロリズム	3・4前・後		2		○									兼2
	アジア太平洋地域システム論	3・4前・後		2		○									兼2
	メディアと政治	3・4前・後		2		○			1						
	日本の外交政策	3・4前・後		2		○									兼2
	エスニシティと国民国家	3・4前・後		2		○				1					兼1
	グローバルメディアと紛争	3・4前・後		2		○			2						
	日本の対外関係史	3・4前・後		2		○				1					兼1
	社会理論	2・3前・後		2		○									兼2
	国際社会学	2・3前・後		2		○				1					兼1
	社会階層論	2・3前・後		2		○			1	1					
	メディアと文化	2・3前・後		2		○			1						兼2
	カルチュラルスタディーズ	2・3前・後		2		○			1						
	メディアと法	2・3前・後		2		○			1						兼1
	ニューメディアと社会	2・3前・後		2		○			1						兼2
	グローバル・ヒストリー	2・3前・後		2		○					1				
	人文学と近代	2・3前・後		2		○									兼1
	社会心理学	2・3前・後		2		○									兼2
	言語と社会	2・3前・後		2		○					1				兼1
	基礎演習（文化・社会・メディア）	2前・後		2				○			2				
	多文化社会論	3・4前・後		2			○				1				兼1
	組織社会学	3・4前・後		2			○			1					兼1
	ジェンダー研究	3・4前・後		2			○								兼2
	教育と社会	3・4前・後		2			○			1					兼1
	メディアと歴史	3・4前・後		2			○			1	1				兼1
	宗教と信仰	3・4前・後		2			○			1					兼1
	文化・社会・メディア 特殊講義	3・4前・後		2			○			1	1				
	専門教育科目分野	1・2・3・4前・後		8			○			1					
小計（104科目）		—	0	216	0	—			23	11	0	2	0	兼51	—
合計（228科目）		—	0	542	0	—			23	11	0	2	0	兼106	—
学位又は称号	学士（アジア太平洋学）	学位又は学科の分野					社会学・社会福祉学関係								

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1) 共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ① 共通教養科目において、選択した学修分野で指定された1科目2単位を含む合計16単位以上を修得する。 ② 言語教育科目において、日本語基準学生は英語科目24単位以上、英語基準学生は日本語科目16単位以上を修得する。 (2) 専門教育科目において、選択した学修分野で指定された28単位を含む合計62単位以上を修得する。 履修科目の登録の上限：1年次36単位（前期18単位・後期18単位）、2年次40単位（前期20単位・後期20単位）、3年次40単位（前期20単位・後期20単位）、4年次48単位（前期24単位・後期24単位）						1 学年の学期区分				2 学期				
						1 学期の授業期間				14週				
						1 時限の授業時間				100分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
（国際経営学部国際経営学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	英語初級A	1・2前・後		4			○							兼5	
	英語初級B	1・2前・後		2			○							兼4	
	英語準中級A	1・2前・後		4			○							兼11	
	英語準中級B	1・2前・後		2			○							兼12	
	英語中級A	1・2前・後		4			○							兼17	
	英語中級B	1・2前・後		2			○							兼13	
	英語準上級A	1・2前・後		4			○							兼14	
	英語準上級B	1・2前・後		2			○							兼14	
	ジャーナリズムのための英語	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語ディスカッションとディベート	3・4前・後		2			○							兼1	
	英語上級1A	1・2前・後		4			○							兼3	
	英語上級1B	1・2前・後		2			○							兼3	
	英語上級2A	1・2前・後		4			○							兼4	
	英語上級2B	1・2前・後		2			○							兼4	
	ビジネス英語2	2・3前・後		2			○							兼1	
	英語多読	2・3前・後		2			○							兼1	
	メディアのなかの英語	2・3前・後		2			○							兼1	
	英語プロジェクト2	3・4前・後		2			○							兼1	
	日本語初級Ⅰ	1・2前・後		4			○							兼16	
	日本語初級Ⅱ	1・2前・後		4			○							兼13	
	日本語初級Ⅲ	1・2前・後		4			○							兼14	
	日本語中級	1・2前・後		4			○							兼12	
	日本語中上級	2・3前・後		4			○							兼11	
	日本語上級	2・3前・後		4			○							兼9	
	日本語プロジェクトA	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語プロジェクトC	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語プロジェクトD	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語プロジェクトF	2・3前・後		2			○							兼1	
	講義の日本語	2・3前・後		2			○							兼2	
	日本語・日本文化	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語・日本社会	2・3前・後		2			○							兼1	
	キャリア日本語	3・4前・後		4			○							兼2	
	日本語ビジネスコミュニケーションA	3・4前・後		2			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	中国語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼5	
	中国語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	中国語Ⅳ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	韓国語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	韓国語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼3	
	韓国語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	韓国語Ⅳ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	マレー語・インドネシア語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼5	
	マレー語・インドネシア語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	マレー語・インドネシア語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	マレー語・インドネシア語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	スペイン語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼6	
	スペイン語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼4	
	スペイン語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（国際経営学部国際経営学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
言語教育科目	スペイン語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼2
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼1
	タイ語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼2
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2
	ベトナム語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1
	TESOL	2・3・4前・後		2			○							兼1
	英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2			○							兼1
	海外集中言語研修	1・2・3・4前・後		2			○							兼2
	特殊講義（言語教育科目）	1・2・3・4前・後		2		○								兼4
	日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2		○								兼1
	日本語教授法	2・3・4前・後		2		○								兼1
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2		○								兼1
	言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8			○							兼1
	小計（66科目）	—	0	204	0	—			0	0	0	0	0	兼41
共通教育科目	スタディスキル・アカデミックライティング	1前・後		2			○		2	4		1		兼13
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○			1				兼13
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2		○								兼2
	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2		○								兼3
	多文化比較論	1・2前・後		2		○								兼5
	海外学習デザイン	1・2前・後		2		○								兼1
	異文化フィールドワークⅠ	1前・後		2		○								兼2
	APMブリッジプログラム	1前・後		2		○								兼1
	ピアリーダートレーニング入門	1・2前・後		2		○								兼2
	ピアリーダートレーニングⅠ	1・2前・後		2		○								兼2
	ピアリーダートレーニングⅡA	2・3前・後		2		○								兼3
	ピアリーダートレーニングⅡB	2・3前・後		2		○								兼3
	アジア太平洋の言語	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の地理	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2		○								兼3
	アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2		○								兼2
	アジア太平洋の経済	1・2前・後		2		○								兼2
	日本の地理	1・2前・後		2		○								兼2
	日本の文化と社会	1・2前・後		2		○								兼4
	日本の歴史	1・2前・後		2		○								兼2
	日本の経済	1・2前・後		2		○				1				兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2		○								兼2
	茶道	2・3前・後		2		○								兼1
	華道	2・3前・後		2		○								兼1
	日本の伝統芸能	2・3前・後		2		○								兼1
	法学	1・2前・後		2		○								兼3
	心理学	1・2前・後		2		○								兼2
	生命倫理	1・2前・後		2		○								兼2
	環境科学	2・3前・後		2		○								兼2

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
（国際経営学部国際経営学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通 教育科目	ウェルネス	2・3前・後		2		○								兼3
	文化・社会学入門	1・2前・後		2		○								兼4
	メディア入門	1・2前・後		2		○								兼2
	国際関係論入門	1・2前・後		2		○								兼4
	政治学入門	1・2前・後		2		○								兼2
	開発学入門	1・2前・後		2		○								兼3
	環境学入門	1・2前・後		2		○								兼3
	観光学入門	1・2前・後		2		○								兼4
	経済学入門	1・2前・後	2			○			1	2				兼2
	統計学	1・2前・後	2			○			2					兼3
	ネゴシエーションスキル	1・2前・後		2		○								兼1
	ロジカルシンキングとフレームワーク	1・2前・後		2		○								兼1
	キャリア・デザインⅠ	1・2前・後		2		○								兼1
	キャリア・デザインⅡ	2・3前・後		2		○			1					兼1
	キャリア・デザインⅢ	3・4前・後		2		○								兼1
	キャリア・デザインⅣ	3・4前・後		2		○								兼1
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○						兼1 ※講義
	メディア制作ラボ	2・3前・後		2			○							兼4
	インターネット入門	1・2前・後		2			○							兼2
	コンピューターリテラシー	1・2前・後		2			○		1					兼2
	プログラミング	1・2前・後		2			○		2	1				兼3
	データマイニング	2・3前・後		2			○		1					兼2
	GIS入門	2・3前・後		2			○							兼2
	インターネット技術統合	2・3前・後		2			○							兼1
	データベースシステム	3・4前・後		2			○		2					兼1
	特殊講義（ICT）	3・4前・後		2			○		1					兼3
	特殊講義（共通教養科目）	1・2・3・4前・後		2		○								兼12
	共通教養科目分野	1・2・3・4前・後		8		○								兼1
	小計（58科目）	—	4	118	0	—			7	6	0	1	0	兼51 —
専門 教育科目	経営学入門	1前・後	2			○			1	1				兼3
	基礎数学	1前・後		2		○				1				兼3
	会計学Ⅰ	1前・後	2			○			1	3				
	マーケティング入門	1前・後	2			○			2	1		1		兼1
	上級数学	2・3前・後		2		○			1	1				兼1
	金融論	2・3前・後	2			○			2	1		1		
	人材と組織行動のマネジメント	2・3前・後	2			○			2	2				
	生産管理論	2・3前・後	2			○			2					
	ビジネス法務戦略	2・3前・後	2			○			1	1				兼1
	ビジネスエシックス	3・4前・後	2			○			2	2				
	グローバルマネジメント（Capstone）	4前・後	2			○			1	4		1		
	専門演習Ⅰ	3・4前・後		2			○		19	9		2		兼7
	専門演習Ⅱ	3・4前・後		2			○		19	10		2		兼8
	卒業研究	4前		2			○		19	10		2		兼9
	卒業論文	4後		4			○		19	9		2		兼5
	ソーシャルアントレプレナーシップ	2・3前・後		2		○			1	1				
	ビジネスデータ分析	2・3前・後		2		○				1		1		
	特殊講義（専門教育科目）	2・3・4前・後		2		○				1				兼4
	ビジネスケース分析・コミュニケーション	3・4前・後		2		○				1				兼1
	経営情報システム	3・4前・後		2		○			2					

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際経営学部国際経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	ビジネスインターンシップ	3・4前・後		2		○				1					※実習
	会計学Ⅱ	2・3前・後		2		○			1	1					
	財務会計論Ⅰ	2・3前・後		2		○			1	2					
	財務会計論Ⅱ	2・3前・後		2		○			1	1					
	原価会計	2・3前・後		2		○			1	1					
	コーポレート・ファイナンス	2・3前・後		2		○						1		兼1	
	金融市場と金融制度	3・4前・後		2		○						1		兼1	
	国際金融論	3・4前・後		2		○			1					兼1	
	投資・証券分析	3・4前・後		2		○			2						
	投資戦略	3・4前・後		2		○						1			
	管理会計論	3・4前・後		2		○			1	1					
	上級会計	3・4前・後		2		○				1				兼1	
	国際会計	3・4前・後		2		○				2					
	監査	3・4前・後		2		○			1	1					
	会計 特殊講義	3・4前・後		2		○								兼1	
	ファイナンス 特殊講義	3・4前・後		2		○								兼1	
	Eコマース	2・3前・後		2		○								兼3	
	マーケティング・リサーチ	2・3前・後		2		○			2			1			
	ブランドマネジメント	2・3前・後		2		○			1					兼1	
	消費者行動論	2・3前・後		2		○			1	1					
	販売・プロモーションマネジメント	2・3前・後		2		○			2						
	サプライ・チェーン・マネジメント	2・3前・後		2		○			2						
	国際物流論	3・4前・後		2		○			1	1					
	国際マーケティング論	3・4前・後		2		○			2						
	サービスマネジメント	3・4前・後		2		○			1	1					
	製品開発論	3・4前・後		2		○			2						
	経営戦略論	2・3前・後		2		○			1					兼1	
	国際取引	3・4前・後		2		○								兼1	
	ファミリービジネス	3・4前・後		2		○								兼1	
	人材マネジメント（上級）	3・4前・後		2		○								兼1	
	組織行動論（上級）	3・4前・後		2		○			1					兼1	
	アントレプレナーシップ	2・3前・後		2		○			1					兼1	
	マクロ経済学	2・3前・後		2		○			2						
	ミクロ経済学	2・3前・後		2		○			3						
	技術経営	3・4前・後		2		○			2					兼1	
	オペレーションズ・リサーチ	3・4前・後		2		○			2						
アジア経済論	3・4前・後		2		○			1					兼1		
国際経済学	3・4前・後		2		○			1	1						
国際政治経済学	3・4前・後		2		○								兼1		
開発経済学	3・4前・後		2		○				1				兼1		
イノベーション 特殊講義	3・4前・後		2		○			1			1		兼1		
専門教育科目分野	1・2・3・4前・後		8		○			1							
小計（ 62 科目）		－	18	114	0	－			20	10	0	3	0	兼30	－
合計（ 186 科目）		－	22	436	0	－			20	10	0	3	0	兼97	－
学位又は称号		学士（経営学）			学位又は学科の分野				経済学関係						

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際経営学部国際経営学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1) 共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ① 共通教養科目において、以下の2科目4単位を含む合計16単位以上を修得する。 経済学入門、統計学 ② 言語教育科目において、日本語基準学生は英語科目24単位以上、英語基準学生は日本語科目16単位以上を修得する。 (2) 専門教育科目において、以下の9科目18単位を含む合計62単位以上を修得する。 経営学入門、会計学Ⅰ、マーケティング入門、金融論、人材と組織行動のマネジメント、生産管理論、ビジネス法務戦略、ビジネスエシックス、グローバルマネジメント (Capstone) 履修科目の登録の上限：1年次36単位（前期18単位・後期18単位）、2年次40単位（前期20単位・後期20単位）、3年次40単位（前期20単位・後期20単位）、4年次48単位（前期24単位・後期24単位）						1 学年の学期区分				2 学期				
						1 学期の授業期間				14週				
						1 時限の授業時間				100分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。